

長	野	県		
埋	蔵	文	化	財
セ	ン	タ	ー	
年	報		21	

2004

財団法人長野県文化振興事業団  
長野県埋蔵文化財センター

# 長野県埋蔵文化財センター年報21

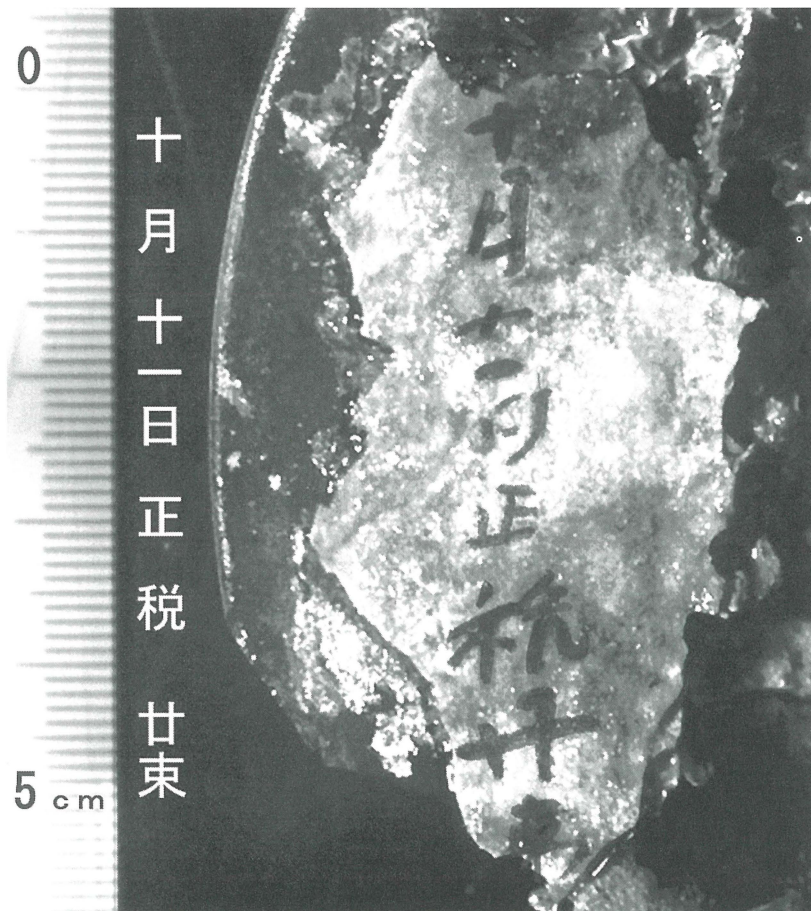
2004

財団法人長野県文化振興事業団  
長野県埋蔵文化財センター





豊田村 川久保遺跡弥生時代中期土器出土状態



千曲市 社宮司遺跡出土漆紙文書

# 目 次

## 口絵写真

- 豊田村 川久保遺跡弥生時代中期土器出土状態  
千曲市 社宮司遺跡出土漆紙文書

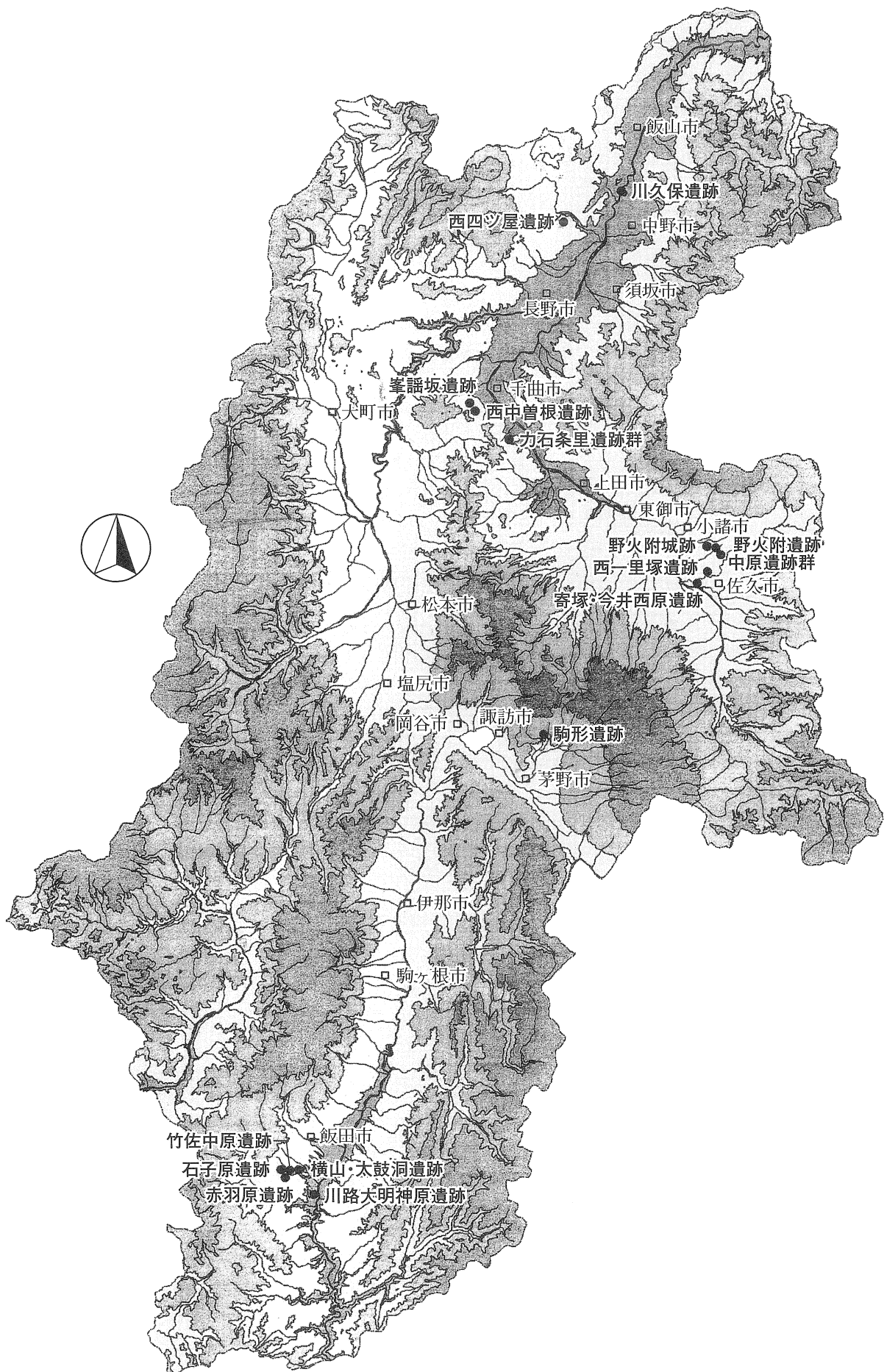
## 目次

<b>I 発掘作業の概要</b> …………… 1	<b>III 普及・公開活動及び諸活動の概要</b>
北信	1 普及・公開活動
（1）川久保遺跡…………… 3	（1）現地説明会…………… 21
（2）西四ツ屋遺跡…………… 5	（2）展示会…………… 22
（3）峯謡坂遺跡…………… 6	（3）刊行物…………… 22
（4）西中曾根遺跡…………… 7	2 諸活動
（5）力石条里遺跡群…………… 8	（1）講師招聘などによる指導…………… 23
東信	（2）学会・研修会などでの発表…………… 23
（6）野火附・中原遺跡…………… 9	（3）研修・視察・資料調査活動…………… 23
（7）西一里塚遺跡…………… 11	（4）全埋協などへの参加…………… 24
（8）寄塚・今井西原遺跡…………… 13	（5）市町村・関係機関などへの協力…………… 24
南信	（6）資料の貸し出し…………… 24
（9）駒形遺跡…………… 14	<b>IV 機構・事業の概要</b>
（10）石子原遺跡…………… 16	1 機構…………… 25
（11）竹佐中原遺跡…………… 17	（1）組織
（12）川路大明神原遺跡…………… 18	（2）所在地
<b>II 整理作業の概要</b>	2 実施事業…………… 25
1 報告書刊行…………… 19	3 役員および職員…………… 26
2 整理作業…………… 20	



## I 発掘作業の概要

遺跡名	所在地	事業名	調査面積	調査期間	時代・内容	主な遺物
川久保	豊田村	千曲川替佐築堤	15,000	4.21～12.20	弥生中期特殊遺構、古墳前期土器集中、古墳・平安集落、水田跡	弥生中期・古墳・平安土器
西四ツ屋	牟礼村	県道長野荒瀬原線	7,000	8.2～11.30	平安住居	平安土器・中近世陶磁器
峯謡坂	千曲市	国道18号坂城更埴バイパス	1,450	4.15～8.17	平安集落、弥生・平安墓域	弥生前期・後期・平安土器、緑釉陶器、線刻土器
西中曾根	千曲市	国道18号坂城更埴バイパス	2,000	7.20～8.13	古墳中期集落	古墳土器
力石条里	千曲市	県道長野上田線力石バイパス	2,795	4.13～11.30	弥生前期末～中期初頭墓壇、弥生後期集落、水田跡	弥生前期末～中期初頭、中期・後期、古墳、平安土器・石器、玉類
野火附	小諸市	中部横断自動車道	4,800	4.22～10.25	古墳前期・後期集落	古墳土器、石釧、白玉
中原	小諸市	中部横断自動車道	2,400	8.9～11.30	古墳後期集落	古墳土器
野火附城	小諸市	中部横断自動車道	2,000	7.6～8.31	検出遺構なし	出土遺物なし
西一里塚	佐久市	中部横断自動車道	6,300	8.9～12.20	弥生後期周溝墓・住居跡、平安水田跡	弥生中・後期・平安土器、鉄釧、鉄剣、ガラス小玉
寄塚	佐久市	中部横断自動車道	2,500	8.23～12.20	弥生中期集落	弥生・中世・近世土器・石器
今井西原	佐久市	中部横断自動車道	20,000	4.14～12.20	弥生中期・古墳前期住居跡・掘立柱建物跡、縄文～近世溝	縄文～近世土器・石器
駒形	茅野市	県道諏訪茅野線	3,000	4.22～12.22	縄文前期集落(住居跡・掘立柱建物跡・方形柱穴列)	縄文前期土器・石器、黒曜石
石子原	飯田市	国道474号飯喬道路	5,000	7.21～11.30	縄文早期土坑、遺物集中、縄文中期住居跡、近世墓	縄文土器、近世陶磁器、旧石器・縄文石器、柄鏡、一分金、銭貨、はさみ、サイコロ
赤羽原	飯田市	国道474号飯喬道路	330	5.26～5.27	検出遺構なし	出土遺物なし
竹佐中原	飯田市	国道474号飯喬道路	2,100	10.13～11.30	旧石器石器集中、縄文土坑	縄文土器、旧石器・縄文石器
太鼓洞	飯田市	国道474号飯喬道路	250	4.13～4.22	検出遺構なし	出土遺物なし
横山	飯田市	国道474号飯喬道路	300	4.13～4.22	検出遺構なし	出土遺物なし
川路大明神原	飯田市	国道474号飯喬道路	15,100	4.23～8.25	縄文中期集落、陥し穴群	縄文土器・石器



第1図 発掘作業遺跡の位置



## (1) 川久保遺跡 (千曲川替佐築堤関連)

所在地及び交通案内：豊田村大字豊津字川久保

上信越自動車道信州中野ICより北へ4km

JR飯山線替佐駅より東へ0.6km (徒歩10分)

遺跡の立地環境：蛇行する千曲川左岸の川岸。

調査期間	調査面積	調査担当者
16.4.21～ 12.20	15,000m <sup>2</sup>	鶴田典昭、黒岩隆、 中島英子、市川隆之、 山崎まゆみ

### 検出遺構

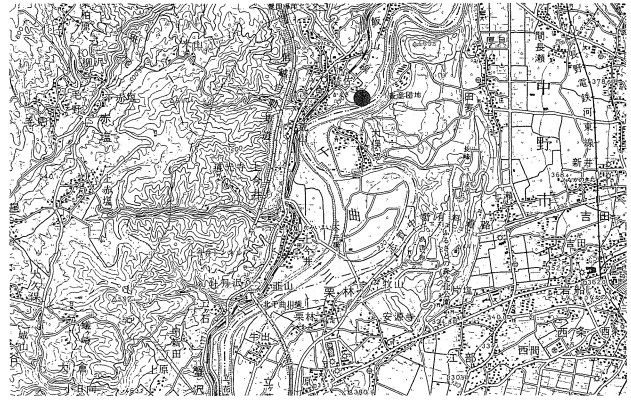
種類	数	時期
竪穴住居跡	18	弥生後期1、古墳中期・後期8、平安9
掘立柱建物跡	4	古墳?
溝	34	弥生～中・近世
水田跡	4	古墳前期1、古墳中期～後期2、中世1
土坑	59	縄文～平安、中・近世
その他	42	遺物集中28、焼土跡12、畝状遺構2、ピット284

### 弥生時代中期の祭祀跡か？

**調査成果の概要** 川久保遺跡は千曲川と斑尾川の合流地点にあり、調査区内には、弥生時代中期から近代までの遺構と遺物が検出された。現在は水田が広がり比較的平坦な地形を示しているが、両河川の洪水などによる、微地形と土地利用の変遷が明らかとなった。

弥生時代中期から古墳時代前期には深い溝状の窪地が形成され、窪地内には洪水砂にパックされた土器集中(弥生時代中期、古墳時代前期)や古墳時代前期の水田が認められる。古墳時代中期までには、窪地が埋まり、比較的平坦な地形となったところに集落が形成され、同時期の水田も確認された。その後、奈良時代の集落は確認されていないが、平安時代に再び集落が展開する。中世以降は、集落跡は確認されず、中世の水田跡が調査区西端で確認された。なお、集落の主体は、調査区北側の微高地上に想定している。

**弥生時代中期の特殊遺構** 4区の微高地縁辺の斜面に弥生時代中期の完形土器(栗林式)約50個体が出土した(口絵、第3図)。完形土器は4区東半



第2図 川久保遺跡の位置 (1:100,000)

### 出土遺物

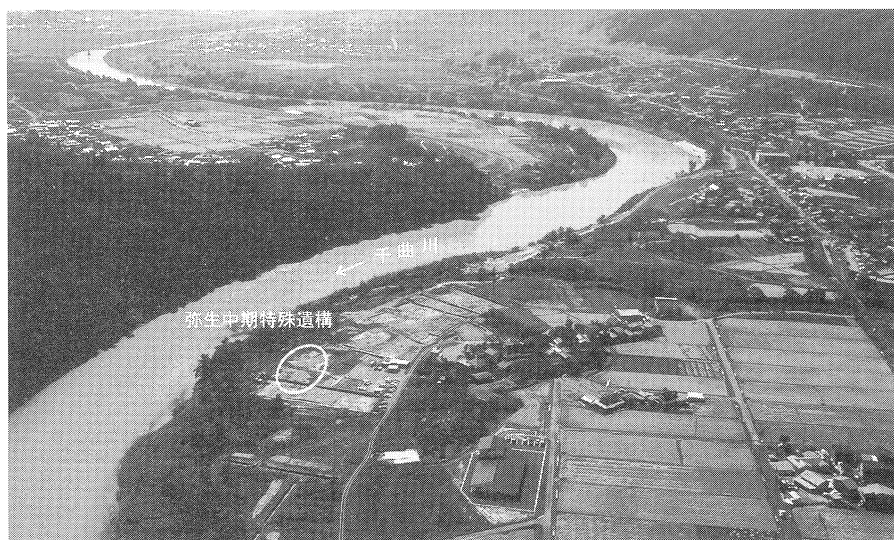
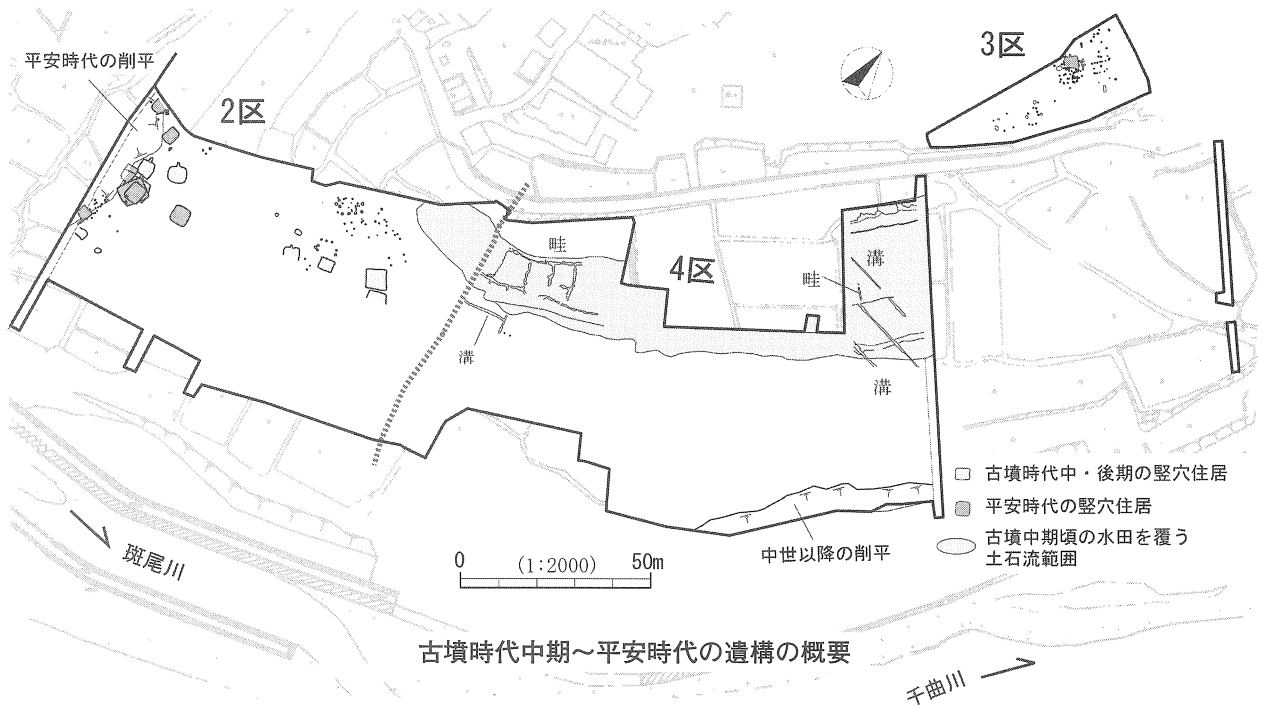
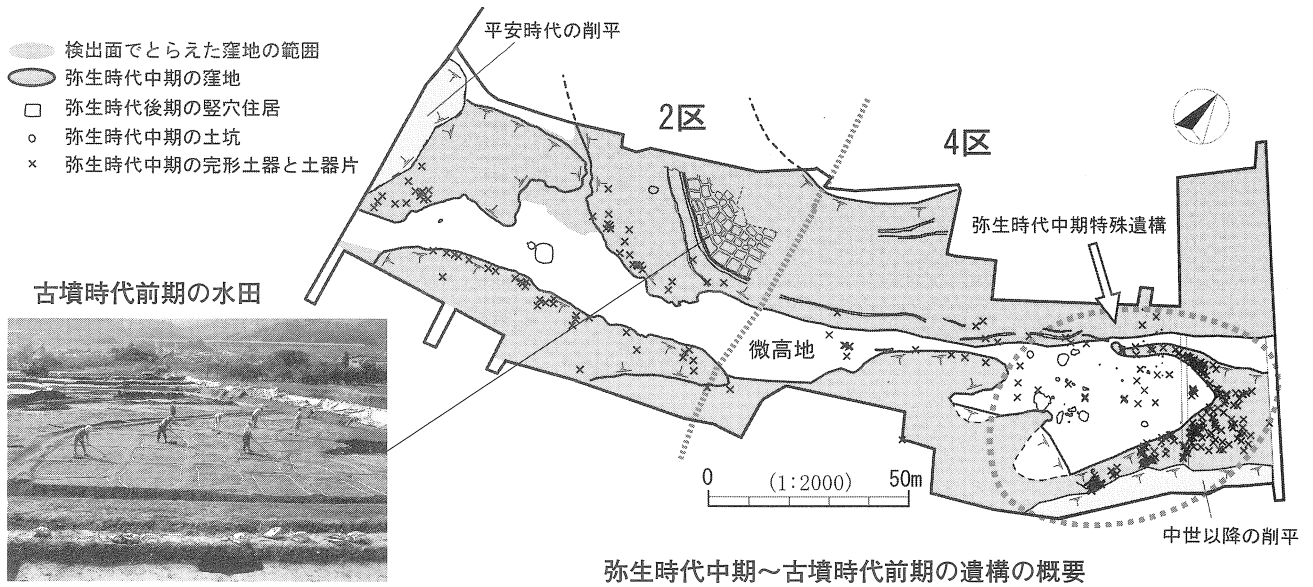
種類	時期・内容
土器	弥生中期の完形土器多数、古墳・平安(須恵器・土師器・灰釉陶器・白磁)
その他	縄文・弥生石器少量、平安(砥石、やりがんな、木製品1)中世(古銭)

部に集中し、4区西半部から2区では破片資料が主体となる。4区東端の土器が出土した斜面には新旧関係がとらえられる2条の溝がめぐっており、微高地上には焼土又は焼土坑が数基確認された。いずれも、土器群と同時期の遺構と判断している。土器を含めたこれらの遺構群を、特殊遺構と仮称する。

調査区内では、弥生時代中期の居住施設は確認されず、石器がほとんど出土しない。これらのことから、弥生時代中期の川久保遺跡は、通常集落とは異なった性格の遺跡であると想定した。水辺の祭祀跡とする説もあるが、その性格は不明である。なお、土器群の周辺でピット群が検出され、特殊遺構を構成するものである可能性がある。周辺の低地部に水田が存在する可能性も含め、今後の資料分析に期待したい。



第3図 弥生中期の特殊遺構と土器の出土状態



第4図 川久保遺跡の調査地点と遺構の概要



## (2) 西四ツ屋遺跡 (県道 (主) 長野荒瀬原線関連)

**所在地及び交通案内：**牟礼村大字牟礼字西四ツ屋

国道18号線普光寺より旧北国街道(長野荒瀬原線)を、牟礼中心部を抜け長野市方面(南)へ約2km。

**遺跡の立地環境：**長野市北部三登山(ミトヤマ)北麓斜面の先端部。尾根状地形とやや広めの谷状地形。

調査期間	調査面積	調査担当者
16.8.2～ 11.30	7,000㎡	中野亮一、入沢昌基、 山崎まゆみ

### 検出遺構

種類	数	時期
住居跡	1	平安前半(9世紀)
掘立柱建物跡	2	平安～近世
溝	8	中・近世、近代
土坑	49	平安～中・近世

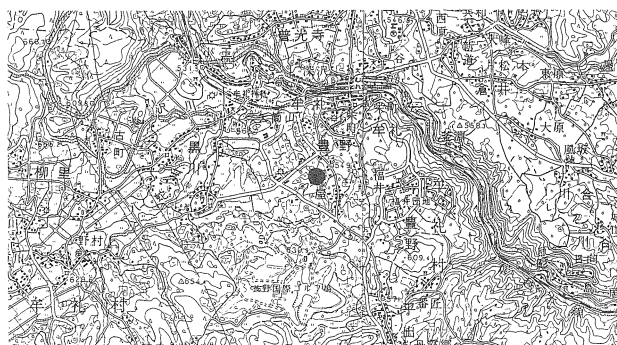
### 出土遺物

種類	時期・内容
土器	平安土師器、平安内面黒色土器、中世内耳土器、中近世陶磁器
石器	縄文(黒曜石石鏃、磨製石斧)
金属器	銅銭(宋銭)

### 「牟礼で類例少ない平安時代住居跡発見」

本遺跡は、過去に全く調査歴が無く詳細は不明であった。現地形は、尾根状の高まりが遺跡中央部にあり、その南北にやや広めの谷状地形が続いている。地形的に考えて尾根状の高まりに遺構が残っていると考えたが、近年の畑地にするための整地により尾根は大きく削られ、遺物包含層や住居跡などは見つからなかった。尾根状部分で古代と思われる遺構は、現時点の考察では土坑1基のみである。

その反面、遺構が薄いと思われていた谷状地形の部分に遺構の広がり確認できた。平安時代9世紀頃と思われる住居跡も確認され、牟礼村では奈良～平安時代の住居跡の確認例は、本遺跡からみて北西の方向にある八蛇川流域の前田遺跡で4軒、丸山遺跡で3軒まとまって見つかったほかはほとんど無く、貴重なものといえる。ただ、本遺



第5図 西四ツ屋遺跡の位置 (1:100,000)



第6図 遺跡上空より鳥居川、牟礼のまちを望む

跡の確認住居は1軒のみで、住居跡以外からの遺物も少なく、まわりに大集落があった様子はない。ここに住んだのはどういった人々なのか。

現時点で考えられることとして、ひとつは、本村を離れて集落外へ出て行った人々である。その目的は、領主などの規制から逃れたい、新たな水田を求めるなど諸説がある。ここ牟礼でいえば、大きな集落は、前田遺跡や丸山遺跡など本遺跡からみて北の方向を東西に流れる鳥居川やその流域にあったと思われ、そこからでてきた人々が、尾根と尾根との間のわずかな場所でも谷水田を求めてきた可能性はある。

もうひとつは、山での炭焼き・狩猟・窯による焼き物などを生業(なりわい)とする「山の民」たちが、より便利な場所へ住みついた可能性である。焼き物については、9世紀前半とされる古窯址群が本遺跡の南側に位置する平出地区を中心に数多く確認されており、未確認ではあるが本遺跡のすぐ南100mほどのところにも窯址があるといわれている。また遺跡内には、時代は新しいが、炭焼きと思われる穴跡もみついている。

他にも様々な可能性が考えられるが、この住居の性格づけが、今後の整理作業の検討課題となろう。

### (3) 峯謡坂遺跡 (国道18号坂城更埴バイパス関連)

**所在地及び交通案内：**千曲市大字八幡字謡坂

武水別神社の南側、「辻」交差点から聖峠に向かい県道姨捨停車場線を走った左側の尾根上の地点。

**遺跡の立地環境：**千曲川の左岸、姨捨の地滑りで形成された尾根上に立地する。

調査期間	調査面積	調査担当者
16.4.15～ 8.17	1,450㎡	河西克造、山崎まゆみ

#### 検出遺構

種類	数	時期
住居跡	13	奈良・平安1、平安12
掘立柱建物跡	1	平安
溝状の窪地	1	平安前期～後期
土坑	102	平安(時期不明を含む)
墓墳	5	弥生前期1、平安4
土器棺墓	1	弥生後期
土器集中	1	

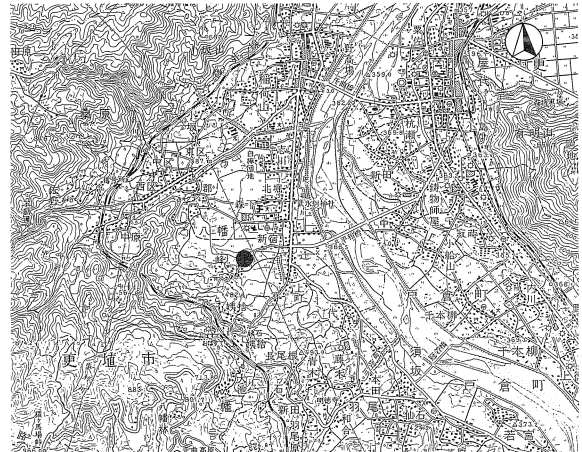
#### 出土遺物

種類	時期・内容
土器	弥生前期・後期土器、須恵器、灰釉陶器、土師器、黒色土器、緑釉陶器、墨書土器、線刻土器
石器	石鏃、打製石斧、磨製石斧
金属器	鉄鏃(雁又1を含む)
土製品	円面硯1

#### 「尾根上に展開する奈良・平安時代の集落」

平成14・15年度の調査で、峯謡坂遺跡は古墳時代～平安時代の集落と判明した。

残件部分を対象とした今年度の調査では、尾根頂部で奈良・平安時代の竪穴住居跡、尾根頂部からその背後の窪地にかけて平安時代の遺構が確認された。窪地からは多量の土器とともに印刻花文のある緑釉陶器、円面硯、鉄鏃など特異な遺物が出土した。これらは、多量の土石とともに廃棄し窪地を埋めたものと考えられ、平安時代後半の竪穴住居や墓は窪地埋没後に構築されている。竪穴住居跡は、同一地点で複雑に重複しており、昨年度調査区で検出された尾根頂部に点在する竪穴住居跡と様相が異なる。竪穴住居跡の立地の問題は、本遺跡の集落構成を考える上で重要な意味を



第7図 峯謡坂遺跡の位置 (1:100,000)

もっているものと考えられる。

一方、墓は掘り方をもち完形に近い平安時代後半の土師器と雁又鏃を埋葬したものと、明瞭な掘り方がないものとの2種類が存在した。後者は覆土等から平安時代後半と思われる、膝を伸ばした姿勢で埋葬された人骨が良好に遺存したものである。埋葬方法が異なる墓が存在することは、本遺跡における当該期の遺体処理を考える上で興味深い資料となろう。

また、平安時代以前の遺構では、尾根頂部付近で覆土から黒曜石などの剥片が多量出土した弥生時代前期の再葬墓と、胴下半を欠いた壺と胴上半を欠いた甕を合わせた弥生後期の土器棺墓が検出された。

今後、遺跡の評価については峯謡坂遺跡の西側沖積地に立地する社宮司遺跡との関連で検討する必要がある。



第8図 峯謡坂遺跡の遠景 背後に冠着山を望む



#### (4) 西中曽根遺跡(国道18号坂城更埴バイパス関連)

**所在地及び交通案内：**千曲市大字八幡字西中曽根

武水別神社南側の「辻」交差点から聖峠に向かい県道姨捨停車場線を走った左側に所在する峯謡坂遺跡の谷を隔てた南側にある。

**遺跡の立地環境：**千曲川の左岸、姨捨の地滑りで形成された尾根の裾部に立地。

調査期間	調査面積	調査担当者
16.7.20～ 8.13	2,000m <sup>2</sup>	河西克造、山崎まゆみ

#### 検出遺構

種類	数	時期
住居跡	2	古墳中期2
掘立柱建物跡	2	古墳中期以降
土坑	7	古墳時代以降

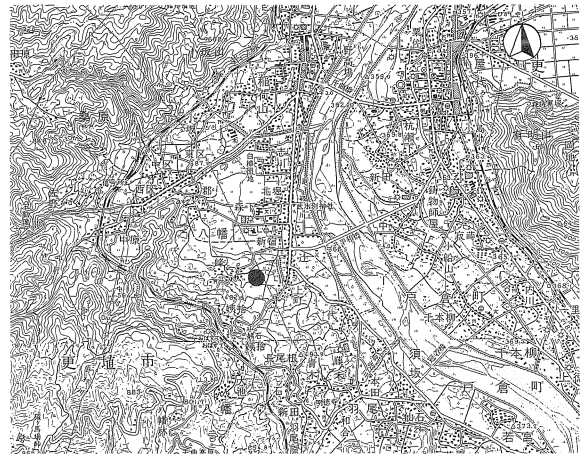
#### 出土遺物

種類	時期・内容
土器	古墳前期～中期の土師器
石器	打製石斧、石皿
石製品	管玉1

#### 「尾根上と裾部分に展開する古墳時代の集落」

西中曽根遺跡は、平成14年の調査で尾根の平坦部分から竪穴住居跡や土坑等が確認され、古墳時代中期を中心とした集落遺跡と判明した。今年度は、東側の斜面裾部で遺構が確認され、補足調査を実施した。

遺構検出の結果、古墳中期の竪穴住居跡と掘立柱建物跡が確認された。竪穴住居跡は、段造成によってかなり削平されていたが、方形プランで部



第9図 西中曽根遺跡の位置 (1:100,000)

分的に周溝が伴うものと判明した。竪穴住居跡を切る掘立柱建物跡は、出土遺物が皆無で時期の特定は難しい。規模は2棟とも調査区外に広がるため不明であるが、長軸が5間を越える建物が存在することは間違いない。柱穴では柱痕が確認され、柱穴底部に礎板を敷設するなど注視される遺構である。さらに、斜面の裾部に形成された窪地には、古墳時代中期を中心とした甕や壺が多量に出土する黒色土が堆積していた。遺構はなく土石を多量に含むことから、斜面上方から崩落したものと考えられる。

今回の調査により、古墳時代の集落は尾根上の平坦部分を中心として斜面下方まで展開していることが判明した。今後は、遺跡の評価について近接する峯謡坂遺跡や東中曽根遺跡など宮川以南の尾根上に展開する集落との関連で検討する必要がある。



第10図 西中曽根遺跡 遠景



第11図 礎板をもつ掘立柱建物跡

## (5)力石条里遺跡群(県道長野上田線力石バイパス関連)

**所在地及び交通案内：**千曲市大字上山田字薬師堂

県道長野上田線の、力石集落西側、岩井堂山の北東山麓に位置する。

**遺跡の立地環境：**千曲川左岸の沖積地。

力石条里遺跡群では、今までに旧上山田町教育委員会や、埋文センターにより発掘調査が行われてきた。そして、千曲川の氾濫や流路の移動によって形成された微地形の、微高地部からは弥生時代から中世にかけての集落跡が、低地部からは水田跡などが確認されている。

調査期間	調査面積	調査担当者
16.4.13～ 11.30	2,795㎡	西 香子、入沢昌基

### 検出遺構

種類	数	時期
住居跡	6	弥生後期
掘立柱建物跡	2	弥生後期、古代以降
溝	26	弥生前期末～中期初頭、弥生後期ほか
水田跡	1	古代以降
土坑	411	弥生前期末～中期初頭(墓壇30基含む)、弥生後期ほか

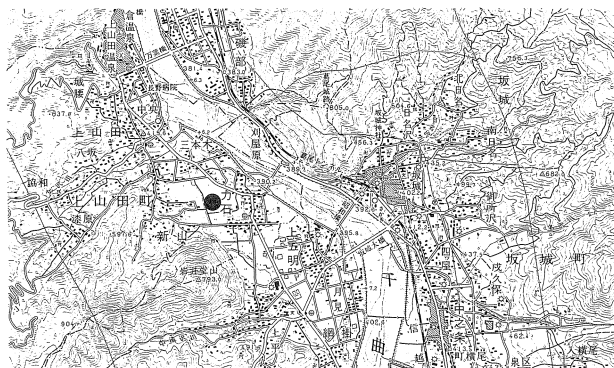
### 出土遺物

種類	時期・内容
土器	弥生、古墳、古代以降
石器	弥生(玉類含む)
木製品	弥生

### 「弥生時代前期末～中期初頭の墓地」

力石条里遺跡群では、平成14年度の調査で、土器棺再葬墓2基を含む、弥生時代前期末～中期初頭の墓が約30基発見されている。今年度はその西隣の地区を調査し、新たな土器棺を伴う墓壇は発見されなかったものの、約30基の墓と思われる土坑が確認された。墓域は南北約50mで、東西は幅20mの調査区域を越えて更に外側に広がっていると考えられる。

墓壇は、黒褐色の埋土を持つ直径1～1.5m、深さ50cm前後で、断面形は底部付近が膨らむ、袋状になるものが多く認められた。墓壇のプランは、



第12図 力石条里遺跡群の位置(1:100,000)

円形或いは楕円形を呈する同じような形状だが、内部は、上層或いは中・下層に、直径10～20cmの礫が入るものや、中層に火床を持つもの、複数回掘り返された跡の残るもの、単層のものなど、いくつかのタイプが認められた。墓壇埋土からは、焼骨片や炭化物が出土しているが、その他に、玉などの石製品や土製の匙、土偶の破片なども出土している。

墓壇検出面及び直上の包含層からは、多量の自然礫に混じって、弥生時代前期末～中期初頭の土器片、石鋏・石鏃などの石器類や剥片が、多量に出土している。



第13図 弥生時代前期末～中期初頭の墓穴



## (6) 野火附・中原遺跡 (中部横断自動車道関連)

所在地及び交通案内：小諸市御影新田

上信越自動車道佐久ICより上信越道東側道を北方向に車で5分

遺跡の立地環境：浅間山南麓の台地上で、田切りと呼ばれる谷を挟んで北に野火附遺跡、南に中原遺跡が所在する。

### 野火附遺跡

調査期間	調査面積	調査担当者
16.4.22～ 10.25	4,800m <sup>2</sup>	上田 真、桜井秀雄、 白沢勝彦

### 検出遺構

種類	数	時期
住居跡	15	古墳前～中2、古墳終末期 13
掘立柱建物跡	6	古墳終末期
溝	9	古墳終末期ほか
土坑	200	古墳終末期ほか

### 出土遺物

種類	時期・内容
土器	古墳～奈良・土師器、須恵器
石器・石製品	縄文・石鏃、古墳・石釧、白玉、こも編み石
金属器	刀子
その他	奈良以降・馬骨

### 「計画的に廃絶された村か」

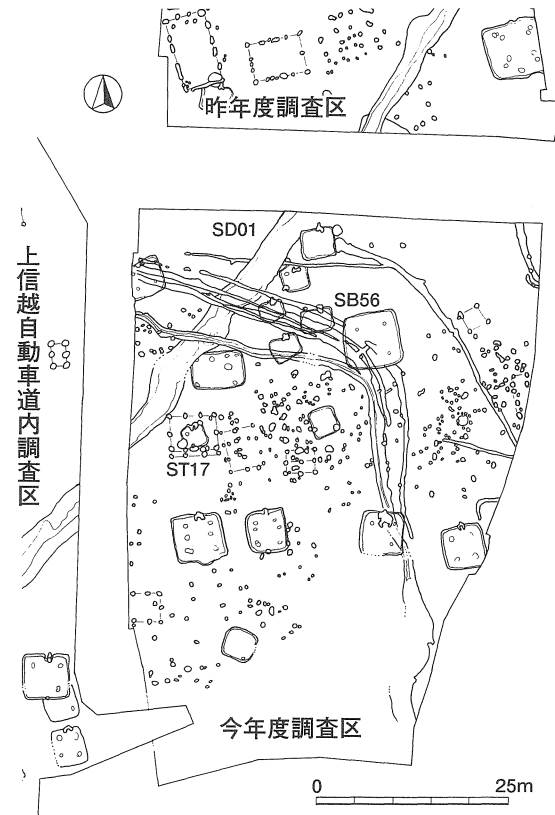
野火附遺跡は今年度、上信越自動車道の東側で、昨年度調査区の道路一本隔てた南側の調査を行った。一昨、昨年度に続いて3年目で、本遺跡の中部横断自動車道関連の調査としては最後である。

検出された遺構は上表のとおりである。古墳時代前期末～中期初頭の竪穴住居跡は上信越自動車道地区のもの合わせて5軒となった。この内56号住居跡は7.6×7.4mと大型で、火災を受けており、床面で完形に近い甕・壺・高坏・小型丸底壺などの土師器とこも編み石、北東隅の床面からやや浮いたところで石釧が出土している。竪穴住居跡からの石釧の出土は珍しく注目される。

古墳時代終末期の竪穴住居跡は13軒で、今年度の調査区では、台地縁辺に近い南側に比較的大型



第14図 野火附・中原遺跡の位置 (1:100,000)



第15図 野火附遺跡全体図



第16図 石釧

の竪穴住居跡、中ほどに掘立柱建物跡、北側に小型の竪穴住居跡が集中している。大型の住居跡は確認面からの深さが70cm前後と深く、そのためか

南壁中央が張り出していたり、南壁中央下に平石が置かれていたりというような入り口施設を持つものもある。南面庇付の17号掘立柱建物跡は、桁行3間、梁間2間の小規模な建物であるが、南側桁柱4本の中央2本の間に長方形のピットがあり、この部分が入り口だったようである。

北西部をかすめる大溝1号溝跡は、上信越自動車道地区の1号溝跡と、昨年度調査区の暫定1号溝を結び、同一の溝であることが確定した。ただ、1号溝の両側に同時期の集落が存在するのに、約150mもの間、1箇所目の切れ目すらないのは不自然で、1号溝の出土遺物に奈良時代のものが見られることなどから、7世紀末の集落廃絶直後にこの溝が掘られたと考えられる。1号溝を切る2・3号溝からは馬の下肢骨が出土しており、廃絶の目的が牧への転換であることを示唆しているように思われる。

#### 中原遺跡

調査期間	調査面積	調査担当者
16.8.9～ 11.30	2,400m <sup>2</sup>	上田 真、桜井秀雄、 白沢勝彦

#### 検出遺構

種類	数	時期
住居跡	9	古墳終末期～奈良
土坑	140	古墳終末期ほか

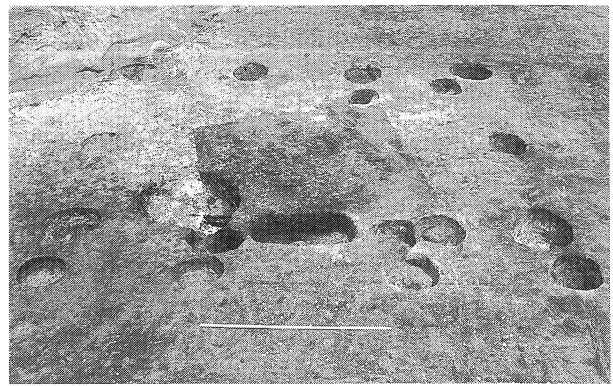
#### 出土遺物

種類	時期・内容
土器	古墳～奈良・土師器、須恵器
石器・石製品	古墳・石錘

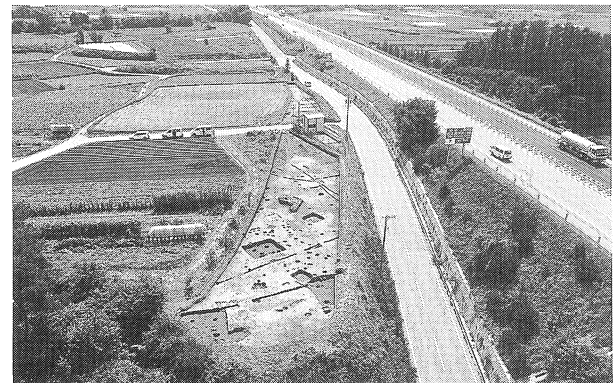
#### 「古墳時代後期～平安時代の大集落」

中原遺跡は、上信越自動車道の東側で、野火附遺跡今年度調査区の谷を挟んだ南側の調査を行った。調査区は浅い谷を挟んで南北260mにわたるが、ジャンクション南端部に当たるため、南端で幅1m、最も広い北端でも幅15mしかなく、完掘できた竪穴住居跡は9軒のうちの1軒に過ぎない。

隣接する上信越自動車道建設に伴う平成4・5年の調査地区は、12,360m<sup>2</sup>で古墳時代後期～平安



第17図 野火附遺跡17号掘立柱建物跡



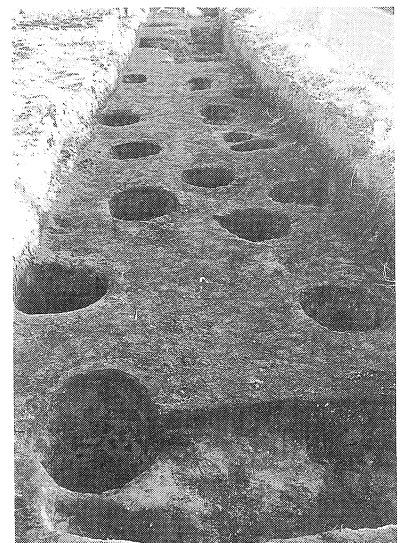
第18図 中原遺跡全景

時代の竪穴住居跡140軒、掘立柱建物跡100棟などが検出された集落域となっている。

今回調査された竪穴住居跡9軒は、3軒の切り合いが1箇所あるほかは疎らに分布し、最も近い住居跡から2～10m離れている。

台地内の浅い谷の南側では、直径70～90cm、確認面からの深さ40～50cmの円形のピットが集中している部分がある。調査区幅が狭く、掘立柱建物跡として確認できなかったが、上信越自動車道地区から繋がるものと考えられる。

今回の調査地点は、上信越自動車道内と比べて遺構密度が1/3～1/4と低く、中原遺跡の集落の中心部をはずれたところに当たると思われる。



第19図 中原遺跡柱穴群

## (7) 西一里塚遺跡 (中部横断自動車道関連)

所在地及び交通案内：佐久市岩村田・平塚

佐久平駅より国道141号バイパスから県道塩名田佐久線を浅科村方面に約1km。

遺跡の立地環境：浅間山南麓の台地上を南西に流下する濁川右岸。

調査期間	調査面積	調査担当者
16.8.9～ 12.20	6,300m <sup>2</sup>	上田 真、桜井秀雄、 白沢勝彦、寺内隆夫、 戸矢崎通昭

### 検出遺構

種類	数	時期
住居跡	4	弥生中～後
円形周溝墓	11	弥生中～後
方形周溝墓	4	弥生中～後
溝	35	弥生中～後31、弥生～平安3、平安1
水田	3	平安1、その前後各1

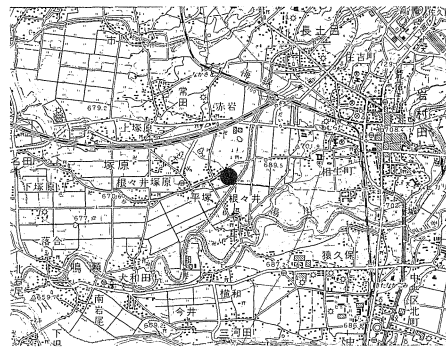
### 出土遺物

種類	時期・内容
土器	弥生・土器、土偶、平安・黒色土器
石器・石製品	弥生・石鏃
金属器	鉄釧、鉄剣
その他	ガラス小玉、歯、木製農具、木材

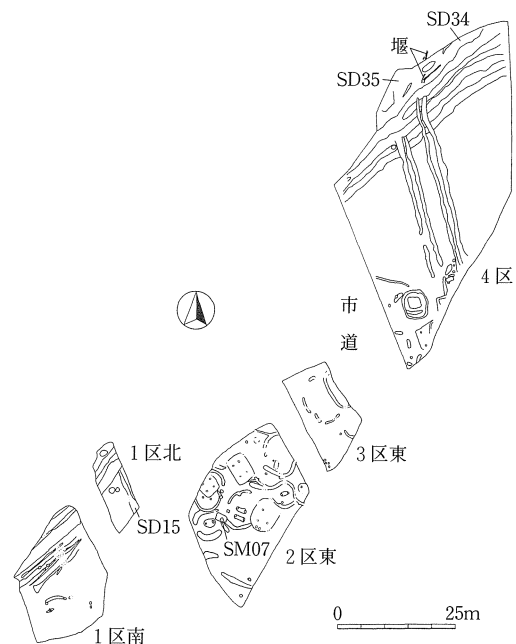
### 「弥生時代中・後期の墓地」

本遺跡は、昭和48年に濁川の左岸（東側）で佐久平地区圃場整備事業に伴う発掘調査で弥生時代後期の竪穴住居跡11軒、土坑7基、溝跡6条、環濠1条が検出され、千曲川流域で最初に発見された環濠集落として知られている。今回の調査地は、濁川を間に挟んだ対岸で、現状は水田、畑及び果樹園となっている。便宜的に市道の南側を南から1～3区、北側を4区に区分している。

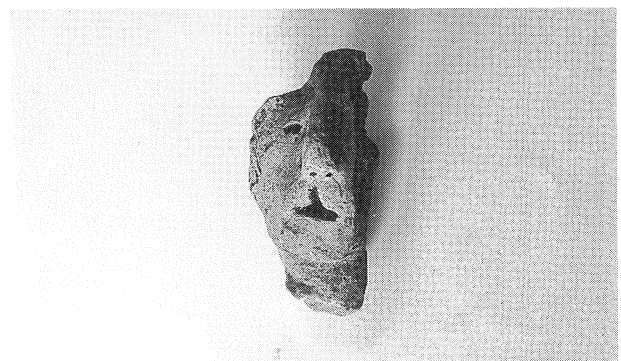
弥生時代の遺構は竪穴住居跡、円・方形周溝墓、木棺墓、再葬墓、溝等である。これらの検出面は浅間第1軽石層と思われる軽石層上面であるが、調査区内の南東部が平坦なのに対して、北西部は同方向に下がっていく傾斜地であり、竪穴住居跡や円・方形周溝墓は平坦部に、溝は主に斜面部から低地部に見られた。また、斜面部から低地部の検出面上層には、厚い黒褐色粘質土の包含層があ



第20図 西一里塚遺跡の位置 (1:100,000)



第21図 西一里塚遺跡全体図



第22図 1区包含層出土土偶

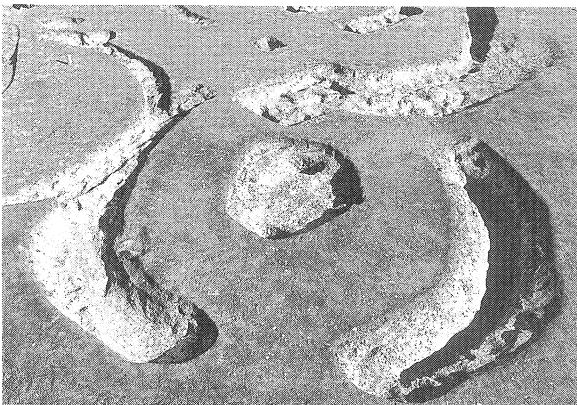
り、大量の弥生時代中・後期の土器と、同時期の土偶頭部片が出土している。

竪穴住居跡は2区に3軒、4区に1軒ある。弥生時代中期栗林式の土器が出土する1軒が小判形で、後期の土器が主体となる他の3軒が長方形である。いずれも確認面からの深さは10cm未満と浅く、かなり削平されている。



円形周溝墓は2区で7基、4区で4基検出されている。間の3区では、今年度は方形周溝墓が検出されただけである。

これらの円形周溝墓は、周溝の外径が6～8m、主体部は長方形または長円形のもの、楕円形のずんぐりしたもの2種類がある。主体部は1基を除いて両端に小口穴があり、組合せ式箱形木棺が納められていたと思われる。これら円形周溝墓からの遺物の出土は概して少量であるが、大型の高坏脚部、鉄剣が主体部から出土した周溝墓もある。周溝が接していたり、周溝の一部を共有するものが多いうえに、周溝が断片的に残ったものや削平されてしまった分も考えるとかなりの密度である。住居跡と周溝墓も空間的には重なりを持つが、住居跡と周溝が切り合っているはずの2箇所、いずれも周溝が住居跡直前で止まって直接には切り合っておらず、前後関係は不明である。



第23図 2区円形周溝墓群

方形周溝墓は、3・4区で各2基が検出されている。ほとんどが調査区境付近に位置するため、全形は不明であるが、短い溝数条で囲まれ4隅ほかが開くものと、周溝が全周するものの2種類がある。周溝の外径は、8～10mと円形周溝墓より大きめである。主体部は調査区外であったり、削平されたりして、検出されていない。

このほか、小口穴を持ち、組合せ式箱形木棺を埋葬したと思われる木棺墓(SM07)からは、乳歯、ガラス小玉、鉄釧が出土し、頭位方向を推定できる資料となっている。また、2区の包含層からは中期の甕形土器、土坑(SK08)からは後期の壺形土器がまとめて潰れた状態で出土しており、そ

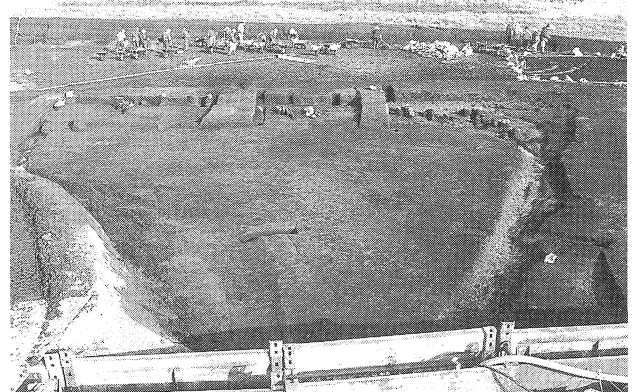
れらを土器棺とした再葬墓の可能性が高い。このように全調査区から各種の形態の墓が検出されている。

溝は2・3区の西側低地部が未調査なため、主に1・4区で検出されている。1区では溝6条が地形に沿って南西―北東方向に平行に走り、2・3区の未調査部分を通して、4区の低地部で検出された溝に繋がると思われる。

ほぼ160mの間直線的に走っていることや、4区では最下段で蛇行して自然流路と見られる溝(SD35)とその上の直線的な溝(SD34)が交わる所に堰が見られること、1・4区でこれらの溝に鋭角に交わる溝が見られることなどにより、これらの溝は環濠ではなく、排水や灌漑のためのものと考えられる。

弥生時代以外では、4区北西部の弥生時代溝の上層で、洪水砂に覆われた平安時代前後の水田3面が検出されている。中層の水田は、幅2.7～5.1mの「く」の字に曲がる大畦畔に幅1m前後の小畦畔が「T」字状に取り付くもので、長方形になると思われる1枚の田の短辺は10m弱である。大畦畔の中を幅1m前後の溝が走り、そこから内面黒色土器の杯1片が出土していることから、中層水田が9世紀頃、上・下層がその前後の時期と考えられる。

以上のように、今年度調査区は集落というよりも墓域であり、溝も環濠ではなく、灌漑や排水用と考えられる。集落と墓域の両方を含む本遺跡中でどのように土地の選択利用がなされたか、来年度以降の調査が待たれるところである。



第24図 中層水田跡

## (8) 寄塚・今井西原遺跡 (中部横断自動車道関連)

所在地及び交通案内：佐久市大字横和～今井

J R 小海線の北中込駅から、県道上原猿久保線を浅科方面(西)へ、2.7kmほどの地点。

**遺跡の立地環境：**千曲川(右岸)と湯川(左岸)に挟まれた台地上に位置する。北よりに位置する寄塚遺跡は相対的に標高が高く、台地中央部の今井西原遺跡に向かって緩やかに傾斜する。寄塚遺跡の北境は湯川の浸食によって削剥され、現状では崖となっている。また、今井西原遺跡の南側には今井宮前遺跡が続き、千曲川の崖に至る。

調査期間	調査面積	調査担当者
16.4.14～ 12.20	22,500m <sup>2</sup>	寺内隆夫、中野亮一、 戸矢崎通昭

### 検出遺構

種類	数	時期
住居跡	3	弥生中期2軒、古墳前期1軒
掘立柱建物跡	4	弥生～平安
溝	24	弥生～中・近世 縄文自然流路含む

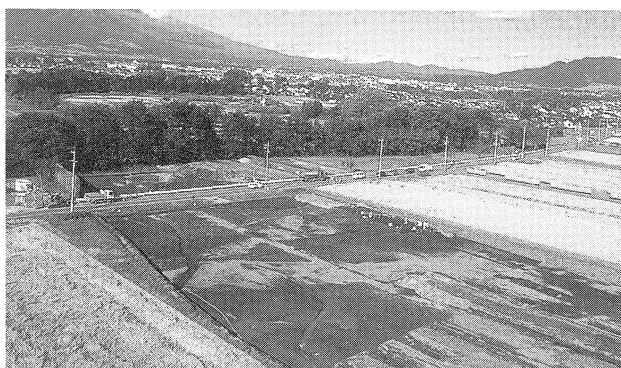
### 出土遺物

種類	時期・内容
土器	縄文中期・後期、弥生中期、古墳前期、 古代、中・近世陶磁器
石器	縄文、弥生、古墳、

### 忘れ去られた新田開発以前の土地利用解明へ

この地域は、近世初頭に市川五郎兵衛真親によって新田開発が行われたとされており、それ以前の耕地開発については不明な点が多かった。

今回の調査では、近世以前の水路などが確認された。弥生時代以降、断続的ではあるものの耕地



第26図 今井西原1区・寄塚遺跡から湯川・浅間山を望む



第25図 寄塚・今井西原遺跡の位置 (1:100,000) 開発に着手されてきたことが判明した。

調査区の全域には黒色土層が認められ、これを鍵層として、上層では中・近世の水路が、下層では縄文時代の自然流路が検出された。また、弥生・古墳時代の遺構が黒色土を覆土としていた。

縄文時代の自然流路からは、中期後葉～後期の土器が出土しており、キャンプ地としての利用が想定される。

弥生時代中期には、寄塚遺跡よりに集落が成立する。弧状の溝が調査区外へ伸びており、環濠とすれば集落の中心は、南側と考えられる。また、古墳時代前期(4世紀代)の遺構が確認されている。古墳時代の住居は廃絶後に粗い砂を含む流路に切れ、9世紀代まで遺構のない時代が続く。

確実に水田開発が始まるのは、中世末期から近世初頭と見られる。台地中央部付近に東西方向の直線的な水路の掘削が行われており、16世紀代の陶磁器が出土している。これらの水路が全て市川五郎兵衛の手によるかは不明である。近隣に中世の今井城跡も存在することから、一部の水路は中世に掘削された可能性もあろう。今後の整理作業において、水路の分析や、中世陶磁器類の時期を絞り込み、開発過程を明らかにしてゆきたい。



第27図 今井西原2区各時代の流路と水路跡

## (9) 駒形遺跡 (県道諏訪茅野線関連)

所在地及び交通案内：茅野市米沢地区

中央自動車道諏訪ICから、ビーナスラインを白樺湖方面へ車で15分

遺跡の立地環境：霧ヶ峰の踊り場湿原「池のくるみ」を源とする桧沢川によって形成された扇状地の、桧沢川左岸に位置する。

調査期間	調査面積	調査担当者
16.4.22～ 12.22	3,000m <sup>2</sup>	贅田 明、小林秀行

### 検出遺構

種類	数	時期
竪穴住居跡	22	縄文前期初頭～前葉
掘立柱建物跡	2	縄文前期前葉
方形柱穴列	3	縄文前期前葉
焼土跡	21	縄文前期初頭～前葉
土坑	34	縄文前期初頭～前葉

### 黒曜石の交易に関わる縄文前期の村 学史・調査の経緯

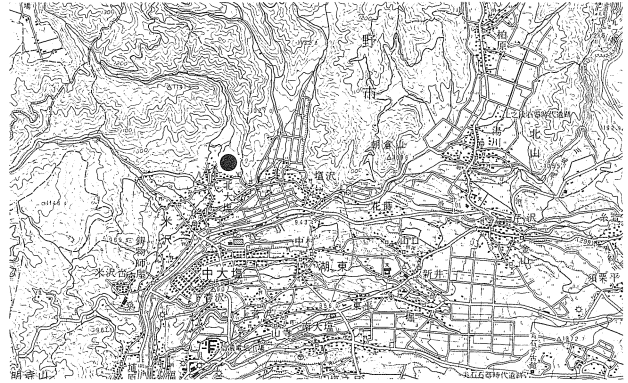
駒形遺跡は黒曜石原産地の直下、霧ヶ峰の南麓に位置する。大正時代には既に遺跡の存在が知られており、地元開業医の田実文朗氏が多量の遺物を収集している。その後、昭和36・41年に宮坂英次氏や諏訪実業高校の生徒らによって、縄文時代前・中期の竪穴住居跡、後期の配石遺構などが調査された。

平成6・8年、長野県教育委員会は大規模な開発事業に備えるために分布・試掘調査を実施し、その結果、駒形遺跡は100軒を超える縄文時代前～後期の大集落であったことが確認された。そして平成10年、駒形遺跡は黒曜石の交易や石器製作状況を解明するための重要な遺跡として国史跡に指定された。

今年度の調査は、遺跡の一面に県道諏訪茅野線が建設されることにともなうものである。

### 調査の概要

調査区は史跡範囲の南側に位置し(第29図)、標高は895～905mを測る。史跡範囲からみると地形的には一段低く、7～10mの標高差がある。調査



第28図 駒形遺跡の位置 (1 : 100,000)

### 出土遺物

種類	時期・内容
土器	縄文前期初頭～中葉(良好な一括資料)、 中期後葉、後期中葉 平安の土師器、中世の陶磁器類
石器	縄文前期初頭～中葉(石鏃、石匙、スクレイパー、石錐、磨製石斧、打製石斧、磨石、凹石、石皿、台石、塊状耳飾、黒曜石の原石・剥片類) 平安(砥石)

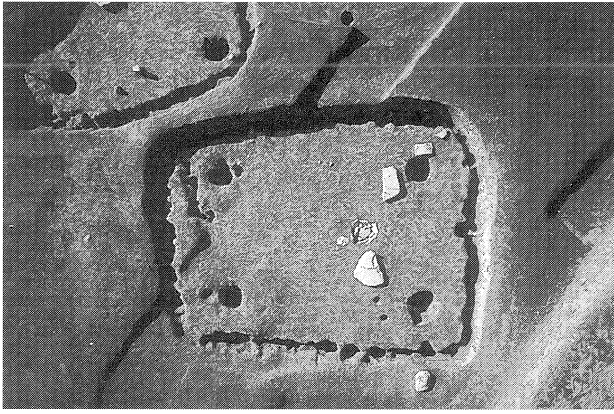
区の南東方向は緩やかな斜面が続き、湧水の「大清水」周辺に広がる湿地へと至る。北西方向は調査区境付近で斜面となり、その底部を桧沢川が流れている。

縄文時代前期初頭～前葉の集落跡が検出されたのは、調査区の中央である。湿地に入る部分と桧沢川へと続く斜面上部を境にして遺構の分布が途切れるため、南東～北東方向における集落範囲は把握できたと言える。また、北側は分布・試掘調査で、史跡範囲から同時期の竪穴住居跡6軒が検出され、南側は調査区に隣接する畑地で当該期の遺物が採集されるなどの状況から、一帯にはかなり大規模な縄文時代前期初頭～前葉の集落が営まれていたと推測される。

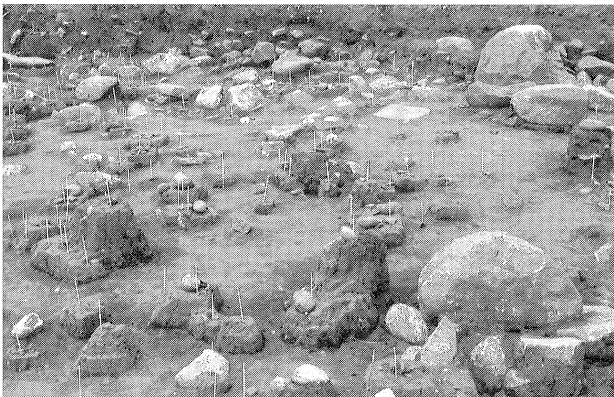


第29図 駒形遺跡近景 (南側から)





第30図 竪穴住居跡



第31図 遺物集中の状況

### 遺跡の特徴

検出された主な遺構は竪穴住居跡と方形柱穴列、掘立柱建物跡である。

竪穴住居跡は円形、楕円形、隅丸方形、隅丸長方形、台形などの形状を呈する。規模は1辺の長さ4～5mのものが主体だが、隅丸長方形と台形には長辺が7mを超えてくるものが存在する(第30図)。炉は住居の中央、もしくは中央から奥壁側にやや寄った位置に設置されている。基本的には地床炉で、浅い窪みにわずかな被熱の痕跡を炉底～炉壁に残す程度のものである。しかし、3軒の竪穴住居跡は石囲炉で、平石を長方形あるいは多角形に組んでいる。床面から固定式石皿もしくは平石が出土する例が多く、炉周辺や奥壁の近くに置いたり、奥壁中央にあたかも持たれかけて置いたような例が存在する。遺物は床面直上から出土したものはわずかで、多くは覆土中～上層の出土である。埋没過程にある住居の窪地へ廃棄された遺物と見なされ、拳大～人頭大の礫をとまう場合も多い。

方形柱穴列は1辺が6.5mの規模で、3×5基の

柱穴をもつ。柱穴は長さ1m、深さ80cmと大形で、列の4隅に存在せず、柱穴間隔が極めて短い、柱穴掘り方の外側は斜めに、内側は垂直に掘り込まれる傾向が認められるなど、原村阿久遺跡や茅野市阿久尻遺跡などで指摘されてきた方形柱穴列の特徴をよく備えている。

掘立柱建物跡には2×2間以上、2×3間以上のもものが存在する。柱穴は概して小形で、柱穴間に一定の距離を保ち、列の4隅にも存在するなど、方形柱穴列とは特徴が大きく異なる。

また、遺構外の遺物集中では多量の黒曜石剥片、原石、石鏃、石鏃未製品と考えられるものが出土した。これらは石器製作を示す遺物なので、この地点が石器製作の場として機能した可能性がある。また、石器製作に関わる遺物とともに石皿、平石、凹石、磨石が出土し、更に焼土跡が検出された。こうした遺物や焼土跡と石器製作の関わりを検討する必要がある。

この他に黒曜石や石鏃がほとんど存在せず、石皿、平石、凹石、磨石が比較的集中していた地点が見られる。この地点は、石皿や凹石類を使用した作業の場であったことがうかがえる。

以上のような遺構外遺物のあり方は、集落内部に様々な目的をもった空間が形成されていたことを示唆すると思われる、集落構成を把握するにあたり非常に注目される。

### 駒形縄文集落の復元に向けて

今回の調査は縄文時代前期初頭～前葉の集落跡が検出され、多量の黒曜石や石器が出土するなど、黒曜石の交易および石器製作に重要な役割を果たした縄文集落であったとする、従来の評価を裏付ける多くの成果を得た。

今後は、集落の様相を検討するとともに石器製作の実態を明らかにし、更に黒曜石の原産地を推定する。そのデータを周辺地域と比較しながら、黒曜石を主体とする交易などに果たした駒形集落の役割を検討していきたい。史跡整備や地域史研究などに欠かせない記録として将来的に活用されるため、遺跡全体を俯瞰した視点で成果をまとめていく必要がある。

## (10) 石子原遺跡

(国道474号飯喬道路(三遠南信自動車道)関連)

所在地および交通案内：飯田市山本南平地籍地

中央自動車道飯田ICから国道153号を阿智方面へ6 km、15分。

遺跡の立地環境：伊那盆地の南西部、高鳥屋山麓に広がる古期扇状地地形が開析された細長い丘陵に位置する。標高は、630m前後である。

調査期間	調査面積	調査担当者
16.7.21～ 11.30	5,000m <sup>2</sup>	若林卓・石上周蔵・ 土屋哲樹・大竹憲昭

### 検出遺構

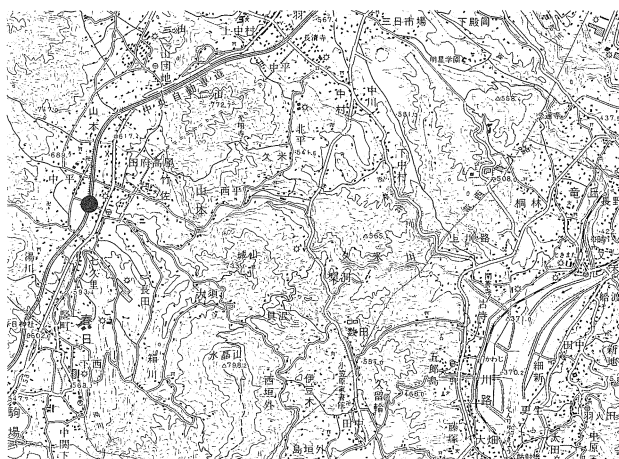
種類	数	時期
竪穴住居跡	1	縄文中期
土坑	25	縄文早期～中期、近世
遺物集中	3	縄文早期～中期
焼土跡	30	縄文早期～中期
集石炉	2	縄文早期～中期
墓壙	27	近世 馬埋葬墓壙を含む
溝	1	近世?

### 出土遺物

種類	時期・内容
土器・陶磁器	縄文早期～中期 深鉢形土器他 江戸時代 天目茶碗他
石器	旧石器 台形石器他 縄文早期～中期 石鏃・打製石斧他
金属製品	江戸時代 銭貨(寛永通宝他)、一分金、柄鏡、はさみ他
木製品	江戸時代 板材・サイコロ

### 旧石器と縄文時代押型文期の遺構

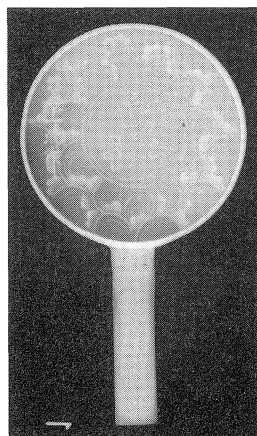
旧石器で著名な石子原遺跡だが今回の調査では、台形石器などの単独出土でブロックは検出されなかった。縄文時代早期押型文期の遺構としては、土坑や遺物の集中箇所が検出された。平成12年度の調査のように竪穴住居跡は発見できなかったが、遺物集中箇所(黒曜石の細かいチップ集中箇所が2箇所、下呂石の集中する箇所1箇所)は、石器製作跡あるいは住居跡の残存とも考えられる。これらを含めて、同時期の可能性の高い火床や集石炉などを含めて、押型文期の集落構造が明らかになっていくと思われる。



第32図 石子原遺跡の位置(1:100,000)

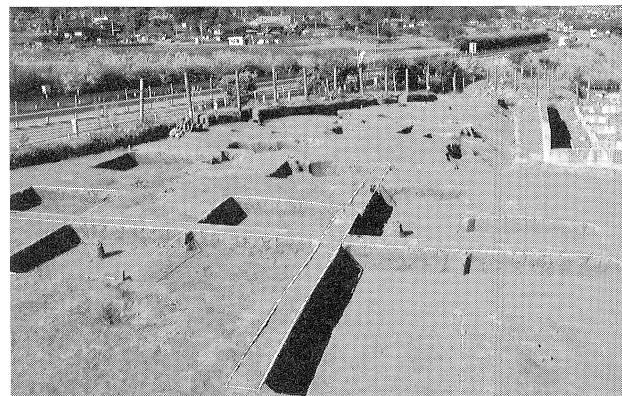
### 江戸時代の墓壙群

江戸時代の墓壙は、昭和47年の中央道の調査でも馬埋葬墓を含めて30基以上確認されており、60基以上の墓壙群を形成したことが明らかになった。墓壙は、不整長方形の掘り方で、屈葬位の埋葬形態である。頭位方向は、北・西の2方向あり、頭位の方向で足の曲げ方など屈葬姿勢に若干の違いが見られた。出土遺物は、六道銭と考えられる銅銭(寛永通宝のほか永楽通宝や元豊通宝等を含む)



第33図 17号墓出土  
柄鏡X線写真

や煙管など江戸時代の墓では一般的なものの他に、17号墓のように、柄鏡(紙や布が付着)、はさみ、寛永通宝、サイコロ、一分金などの豊かな副葬品が出土している墓壙もある。出土遺物や人骨は、埋葬形態やその変遷を解明する上で、良好な資料といえる。



第34図 江戸時代墓壙群

## (11) 竹佐中原遺跡

(国道474号飯喬道路(三遠南信自動車道)関連)

所在地および交通案内：飯田市竹佐

中央自動車道飯田ICから国道153号線を阿智方面へ6 km、15分。

遺跡の立地環境：高鳥屋山（たかとやさん）山麓の、古期扇状地が浸食される過程で残った広く平坦な丘陵上（標高612m）。

調査期間	調査面積	調査担当者
16.10.13～ 11.30	2,100㎡	大竹憲昭・石上周蔵・ 土屋哲樹・若林卓

### 検出遺構

種類	数	時期
遺物集中	1	旧石器（次年度本調査）
土坑	2	縄文

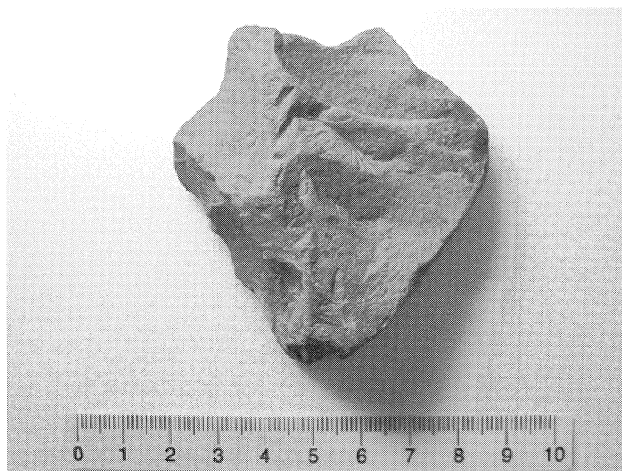
### 検出遺物

種類	時期・内容
土器	縄文
石器	旧石器、縄文（一部取り上げ）

## 広がる竹佐中原遺跡の旧石器文化 ～新たな石器ブロックを発見～

本年度の調査では、調査区の東側から遺構検出を行ったが、当初は遺構の検出はなく、遺物も攪乱土中に単発的に確認されるのみであった。10月29日に調査区北西隅付近で、表土中から石器を発見した(第36図)。その後1週間で約10mの範囲から30点ほどの石器群が確認された(第37図)。

この石器群の北東側約80mには、平成13年度に



第36図 表土中から出土した石器

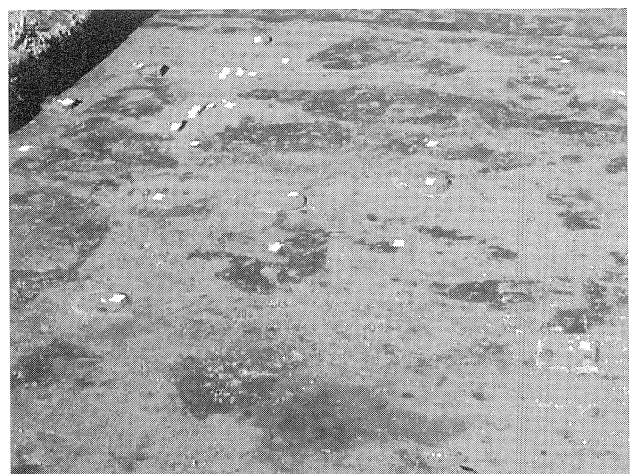


第35図 竹佐中原遺跡の位置（1：100,000）

調査され、約70点のまとまった石器が確認された2ヶ所の石器ブロックがある。両者の石器を比較すると、同種の石材を用いており、色調・質感などの特徴が類似している。さらに、剥離が粗く、剥片の形が精緻ではないなど、石器の製作技術が類似していることから、約3万数千年前に始まるナイフ形石器文化を遡る可能性がある。

竹佐中原遺跡では、平成12年度から断続的に発掘調査を行っており、丘陵の平坦部を中心に広い範囲から石器が検出されている。そうしたなかで、平成13年度以来のまとまりを持った石器ブロックを確認できた。

本年度発見された新たな石器ブロックは、これまでの調査成果を補強し、比較検討を可能にするものである。そうした意味で、本年度の調査成果は、いまだに不明な点が多い旧石器時代の文化を復元し得る重要な資料になると考えられる。



第37図 石器ブロック出土状態



## (12) 川路大明神原遺跡

(国道474号飯喬道路(三遠南信自動車道)関連)

所在地および交通案内：飯田市川路

中央自動車道飯田ICからアップルロードを経て国道151号線を下條方面(南)へ13km、25分。

J R飯田線天竜峡駅から南東へ約1 km。

遺跡の立地環境：飯田市の南端部、天竜川西岸の段丘上に位置する。遺跡の東境は天竜川、南は兄川の浸食により断ち切られた急崖で、北は下位の段丘面へ下る急斜面となっている。

調査期間	調査面積	調査担当者
16.4.23～ 8.25	15,100m <sup>2</sup>	若林 卓・石上周蔵

### 検出遺構

種類	数	時期
竪穴住居跡	4	縄文中期初頭～後葉初
土坑	91	縄文(陥し穴15を含む)

### 出土遺物

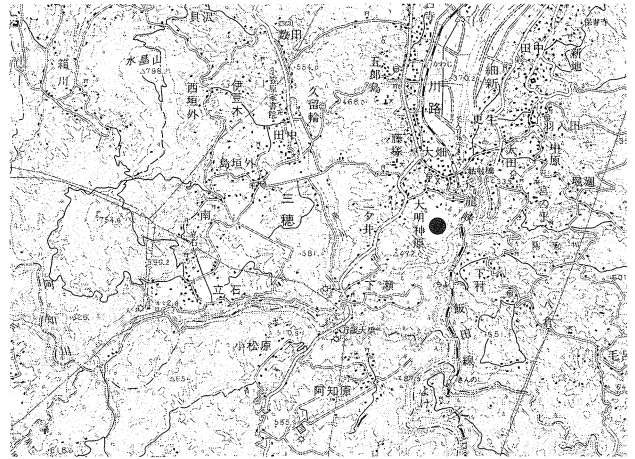
種類	時期・内容
土器	縄文中期初頭～後葉
石器	縄文

### 縄文時代の集落と陥し穴

遺跡内の地形は中央の南北方向の谷状低地を挟んで東西で異なる。東部は台地状の地形を成しており、西部は川路丘陵東麓から続く緩傾斜地となっている。1999年度から発掘調査を進めているが、本年度は三箇所での面的調査を実施した(8b区・15b区・20b区)。

東部台地の西縁部にあたる8b区では縄文時代中期の集落跡が確認された。住居跡は中期初頭～後葉初に属する。初頭の2軒が切りあうものの、散漫な分布を示す。陥し穴も若干存在するが、土坑は貯蔵穴と思われる円形土坑が主体である。一方、東縁部の15b区では住居跡は見つかっていない。そして西部緩傾斜地の末端部に位置する20b区でも住居跡は確認されなかった。また、15b区と20b区では陥し穴の割合が高くなっており、特に20b区には円形土坑はごく少ない。

今回の調査で、縄文中期の集落域は東部台地の

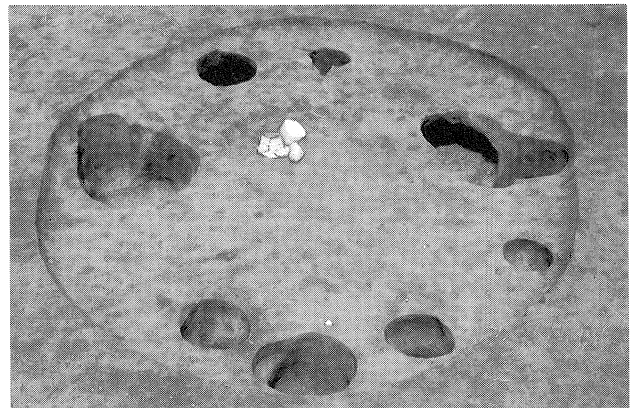


第38図 川路大明神原遺跡の位置(1:100,000)

西縁部に限られることが明確になった。集落域は南北に長く帯状に広がっている。確認された中葉までの集落はその南半部に営まれ、住居1～2軒の小規模なものだったと推測される。中葉末から後葉にかけて住居数が増加して集落の規模が拡大するとともに、集落はより北側へ移動してゆく。後葉の集落が北側用地外に及ぶことは確実である。

遺跡内には集落形成以前と思われる陥し穴が広く分布しているが、東部台地で最も高い東縁部の頂部に直径100mほどの空白域があることがわかった。また、20b区で見つかった同様な構造をとる陥し穴の列状配置は同時構築の一群として捉えられる可能性がある。

以上、当地域における縄文時代陥し穴集の実態と縄文中期集落の構造を把握するための良好な知見が得られた。まだ未調査地が残っており、次回の調査で遺跡内容がより明らかになることが期待される。



第39図 縄文時代中期の住居跡(SB42)

## Ⅱ 整理作業の概要

### 1 報告書刊行

「農林漁業用揮発油税財源身替事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2 飯島町内その2 原林遺跡」

縄文中期後半集落の一角、竪穴住居跡の調査報告。土器は唐草文系土器を主体とするが、下伊那系土器が客体的に散見され、上伊那・下伊那地方の交流の一端を見ることが出来る。

「国営アルプスあづみの公園埋蔵文化財発掘調査報告書 3 大町市内その2 肩平・菅ノ沢遺跡、乳川石堤他」

試掘を含め8遺跡の調査報告で、時代は縄文時代早期から中世にわたる。鉄生産に関わったと思われる平安時代の集落である菅ノ沢遺跡や中世の総柱掘立柱建物跡を検出した肩平遺跡、近世水利事業である乳川石堤を掲載。

「担い手育成基盤整備事業（芹ヶ沢地区）・国道292号線バイパス建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 茅野市 聖石・長峯（別田沢）遺跡」

八ヶ岳西麓の同じ細尾根上に並列する、縄文時代中期から後期の大規模集落、聖石遺跡と長峯遺跡の全面調査の報告である。30ヶ月間の調査の延べ面積は52,350㎡に及び、見つかった住居跡は合計359軒にのぼる。平成13・14年の整理業務を経て、16年度は印刷業務を実施した。膨大な調査資料の基礎報告に努めた。また当時の土地利用変遷をまとめ、集落占地の状況を概観した。（報告書の体裁）3分冊、付図3葉、データCD1枚添付。

「県営蓼科ダム埋蔵文化財発掘調査報告書 茅野市 笹原上第1遺跡・第2遺跡」

土坑89基が検出され、そのうち81基が縄文時代の陥し穴である。多様な形態をもつが、なかには長軸壁際にローム土を貼るものが少なからず確認され、「貼壁」という概念を提示した。

「国道153号伊那・松島バイパス関連埋蔵文化財発掘調査報告書 箕輪町 箕輪遺跡群」

平成12～15年度にかけて断続的に調査した箕輪

遺跡の報告書刊行。弥生中期後半・弥生後期・古墳後期の集落跡・水田跡、古代水田跡、中世以後の杭列などの水田関連遺構等を報告した。

「地方道路交付金業務（主）川上佐久線埋蔵文化財発掘調査報告書 臼田町 唐松B遺跡」

千曲川を望む段丘上に立地する本遺跡の縄文中期後葉の集落は、竪穴住居が環状にめぐり外側に貯蔵穴が配置する構造をなす。弥生中期初頭の墓壇は、南佐久郡の再葬墓で埋納方法が判明した唯一の事例となる。

「地方道路交付金業務（主）下仁田臼田線埋蔵文化財発掘調査報告書 臼田町 三分遺跡」

周溝のみの検出だが未周知の7世紀後半の煙滅古墳1基を発見した。雨川南岸では初めての古墳となった。他には42基の土坑と11本の溝を検出したが、時期不明のものが多く。

「広域営農団地農道整備事業佐久南部地区埋蔵文化財発掘調査報告書 八千穂村 馬込遺跡」

竪穴状遺構1基と土坑104基を検出した。土坑のうち5基は陥し穴であり、縄文時代には狩猟域であったことが判明した。出土遺物には縄文時代・平安時代。中近世のものがみられた。

「国道474号（飯喬道路）埋蔵文化財発掘調査報告書 1 飯田市内その1 長野県竹佐中原遺跡における旧石器時代の石器文化」

平成13（2001）年度に発見された旧石器は、県内でも最古級の石器群であると考えられる。この石器群の発見当時は「前・中期旧石器遺跡ねつ造事件」が社会的話題になっており、研究の再構築につながる重要な石器群として全国的にも注目された。遺跡は広大で今年度も調査は継続しているが、前年度までに発見された石器群を整理・分析し、報告書を刊行。現時点における石器群の歴史的な位置づけに迫る。

「安曇野農業水利事業あづみ野排水路埋蔵文化財発掘調査報告書 三角原遺跡」

9世紀中葉～11世紀中葉に属する56軒の住居跡と約120基の土坑を検出。南安曇郡下における古代集落遺跡の調査例としては最大規模である。集

落の変遷は5段階に及び、当地の古代開発の様相を探る上で貴重な事例となった。報告書を刊行。

## 2 整理作業

### (1) 社宮司遺跡(国道18号坂城更埴バイパス関連)

社宮司遺跡は、古代信濃国10郡のひとつ、更級郡衙の推定地にある。これまで2度にわたる発掘調査で、竪穴式建物跡17軒と60棟をこえる掘立柱建物跡を検出した。主な出土遺物には、付札や習書木簡、漆紙文書、緑釉取手付瓶、奈良二彩や三彩陶器など官衙的色彩の強い資料が含まれている。習書木簡1点は「緘」の字の手習いである。漆紙文書は「十月十一日正税甘束（じゅうがつじゅういちにちしょうぜいにじゅうそく）」の9文字を判読できることから、出挙返納帳と考えられる。

遺跡は東西方向に走る大溝によって区画され、7世紀の後半から10世紀前半まで連綿と継続する。9世紀後半に大きな画期を迎え、掘立柱建物群の減少と竪穴式建物の増設等、官衙的要素の強い施設群から、在地有力層主導の独立したまとまりある施設群へと大きく転換する。10世紀前半には、掘立柱建物および竪穴式建物が消滅し、時期限定できない屋敷的建物が形成される。1基のみ確認した木棺墓は、炭素年代測定により11世紀初頭の年代値を得ており、いわゆる屋敷墓であれば、この建物に伴う可能性が最も高い。

また、平成13年（2001年）に発見された「六角木幢（ろっかくもくどう）」は、平安時代末期の木製仏教塔で国内初出とされる。幢身に描かれた阿弥陀如来坐像からは、末法思想下の浄土教信仰を垣間見ることができる。太刀2振りと弓1本の木製形代を副葬した屋敷墓の墓前供養塔との位置づけが可能であれば、社宮司遺跡の終焉を締めくくる重要な遺物となる。六角木幢の年代測定結果には、ばらつきがあるが、おおむね11世紀後半から12世紀前半が確率的に最も妥当な値である。今年度、六角木幢に関しては保存処理前の事前分析を実施し、17年度から3ヵ年をかけて保存処理業務に入る。社宮司遺跡の報告書は、原稿の執筆・編集作業を実施し、17年度刊行予定。

### (2) 中村・外垣外遺跡(国道20号坂室バイパス関連)

弥生時代と平安時代～中世の集落跡。平安時代の集落から少し離れた位置で平安時代後期～中世の掘立柱建物跡群と土壙墓2基を確認した。その内の1基から2面の鏡と3個の鉄鐸、棒状の鉄製品2点が出土している。

鏡は2面とも瑞花双鳳八稜鏡で、鉄鐸との共伴はめずらしく、諏訪という土地柄から考えると“諏訪信仰”と濃密な関係があるものと考えられる。また、1枚の鏡は薄い板材と思われる脆弱な有機物が付着した状態で出土しているため、平成17年度に樹種同定を行う予定である。

また、調査区西端部では中世の深さ1m余りの区画溝と考えられる遺構が確認された。

本遺跡付近には千野氏居館があったとの記録（吾妻鏡）があるなど。鏡や溝跡、掘立柱建物跡群の検出は、本遺跡のある西茅野地区が諏訪の有力勢力との関わりを示すものと考えられないだろうか、今後の課題である。

### (3) 月岡遺跡（北陸新幹線関連）

月岡遺跡は中野市岩井地籍の東方山際の丘陵に立地する。遺跡先端部を通過するように北陸新幹線が予定されたことから、平成15年度に発掘調査を実施し、斜面をテラス状に造成した中世屋敷群と経塚1基、下層の弥生後期を中心とした土器包含層を検出した。本年度から整理作業に着手し、土器の接合・復元、土器・経石の実測作業と、遺構の基礎整理とトレース作業を進めた。

この整理作業を通して、中世屋敷群は15世紀を中心とし、場所毎に建物の様相に差があるらしいこと、①区とした上段の平坦地から13世紀後半～14世紀前半頃の古い遺物が出土していることが知られ、造成時期や利用状況が異なる可能性も考えられた。ただ、出土遺物量自体が少なく、断定するには今少し検討が必要と思われる。また、下層の弥生土器包含層から採取された土器の大部分がいわゆる吉田式の土器であることが判明した。

今後はこれらの成果を踏まえて整理を進めたい。



### Ⅲ 普及・公開活動及び諸活動の概要

#### 1 普及・公開活動

##### (1) 現地説明会

今年度発掘作業を実施した18遺跡のうち、6遺跡で現地説明会を実施した。各遺跡で発見された遺構や遺物の現地公開だけでなく、体験学習などもくみ入れ、多くの参加者が埋蔵文化財への関心を深められるような内容に努めた。

##### 峯謡坂遺跡

6月26日(土)に地元を対象として実施した。当日は、埋蔵文化財の発掘方法やその必要性をわかってもらう目的で通常の作業を行い、見学の方々に遺物が出土する瞬間などを見てもらった。発掘補助員に交じって地元小学生や親子づれが熱心に土器を掘る風景は印象的であった。また、遺跡内で県立歴史館の企画・担当で勾玉作りも行い、予想以上に盛況であった。当日は80名ほどの参加があり、埋蔵文化財を身近に感じることができた機会であった。

##### 野火附遺跡

8月7日(土)に実施し、石釧が出土した古墳時代前期末の住居跡及び、古墳時代終末期の集落跡を公開した。当日は、午後に雨となる生憎の天候であったが、直前に石釧出土の新聞報道があったこともあって、午前中を中心に130名の見学者が訪れた。同時に勾玉作り教室も開かれ、大人から子供まで熱心に取り組んでいた。

##### 駒形遺跡

8月21日(土)と12月4日(土)の2回実施した。国史跡の遺跡であることから地域の人々の関心も高く、1回目は150名の見学者が訪れ、土器・石器を見るばかりでなく、石器作りや発掘体験を行ったり、弓矢を飛ばしてみたり体験的な説明会で子どもたちにも好評を博した。2回目も170名と多くの見学者が訪れ、縄文時代前期の住居跡約20軒を公開することができた。

##### 川久保遺跡

10月2日(土)に実施し、140名の見学者があっ

た。弥生時代中期の特殊遺構を中心として、古墳時代と平安時代の集落跡と出土遺物を公開した。その他、古墳時代の土石流で埋没した水田、地震の痕跡である墳砂などを公開し、川久保地籍の災害史を知っていただく機会となった。

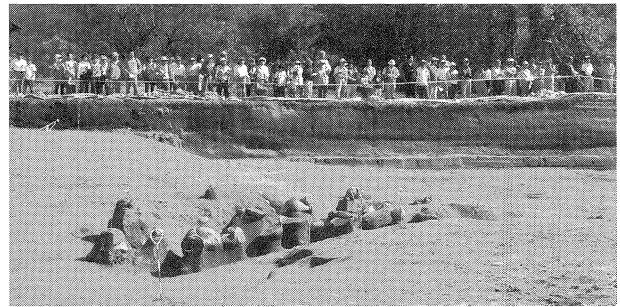
また、同時開催した発掘体験は、予定を延長して実施するほど好評であった。

##### 石子原遺跡

10月17日(日)に実施した。前日報道関係に公開し報道されたこともあり、地元の方を中心に約80名の見学者が訪れた。一分金の出土した墓坑を中心に江戸時代の墓群、縄文時代の竪穴住居跡などの遺構や、出土した遺物を公開した。

##### 西一里塚遺跡

11月20日(土)に実施し、弥生時代後期の円・方形周溝墓群と竪穴住居跡、古代の水田跡を公開した。特に大きく広報はしていなかったにもかかわらず、地元の方を中心に62名の見学者が訪れ、発見された遠い過去の遺構や、展示された弥生土器や、墓の副葬品のガラス小玉や鉄釧、縄文時代のものとは全く異なる弥生時代の土偶に見入っていた。



第40図 川久保遺跡現地説明会



第41図 駒形遺跡体験発掘

## (2) 展示会

### 1 平成15年度長野県埋蔵文化財センター速報展 「長野県の遺跡発掘2003」

①歴史館会場 平成16年3月13日(土)～5月9日(日)

年度をまたいでの開催であったが、計10,158名の来館者があった。4月11日には遺跡調査報告会と国立歴史民俗博物館教授春成秀爾氏による「考古学における年代決定の最前線」と題した講演会を行い、133名の聴講者をみた。

②伊那文化会館会場 平成16年7月1日～7月11日(日)

南信ではじめて実施する展示会であった。実質10日間の開催だったが、計1,249名の来館者をみた。11日には4遺跡の調査報告会も実施し、80名の聴講者を数えた。また初めての試みとして展示解説会も行い好評であった。

### 2 「遺跡の調査から何がわかったか」～長野県埋蔵文化財センター速報展2004～

平成17年2月21日(月)～28日(月)

県文化財・生涯学習課主催の事業に協力して県庁ロビーで開催した。埋蔵文化財や長野県の歴史に対する理解を深めてもらうとともに、あわせて当センターの業務や役割を理解してもらうことを目的として、平成16年度に調査した注目すべき遺跡である豊田村川久保遺跡と茅野市駒形遺跡の遺物・写真パネル等を展示した。

### 3 「写真でみる長野県の遺跡発掘2004」

平成17年2月23日(水)～3月4日(金)

屋代駅市民ギャラリーで開催した。歴史館会場で行われる「長野県の遺跡発掘2004」のイベントとして位置づけ、平成16年度に発掘調査を実施した遺跡の写真・文字パネルを展示した。

### 4 平成16年度長野県埋蔵文化財センター速報展 「長野県の遺跡発掘2004」

県立歴史館会場 平成17年3月19日(土)～5月8日(土)

伊那文化会館会場 平成17年7月20日(水)～7月31日(日)

長野県立歴史館・長野県伊那文化会館との共催

で、平成16年度に当センターが調査した遺跡の出土資料や関連遺跡の資料を展示している。今回は、墓の移り変わりについての解説、当センターの普及公開活動の展示も加え、センターの事業や長野県の歴史や埋蔵文化財について県民の理解を得るとともに、興味・関心が深まることを目的としている。展示方法も遺跡の特徴をわかりやすくすることを心がけた。

今回も県立歴史館と伊那文化会館の2会場で開催する。期間中、県立歴史館会場では4月10日(日)に今年度調査したうちの4遺跡の調査報告会と駒澤大学文学部助教授設楽博己氏による「弥生時代における漢文化の影響」と題した講演会を予定している。また伊那文化会館会場では7月30日(土)に今年度調査整理したうちの4遺跡の調査報告会と「八ヶ岳西麓の縄文文化」と題した縄文トークを予定している。

## (3) 刊行物

今年度刊行した発掘調査報告書については、Ⅱ整理作業の概要を参照。

報告書以外の刊行物として、平成15年度の事業報告として「長野県埋蔵文化財センター年報20」を刊行。また、16年度の発掘作業・整理作業の速報・資料紹介として「長野県埋蔵文化財センターニュース「みすずかる」」4～6号を刊行した。



伊那文化会館での見学風景

## 2 諸活動

### (1) 講師招聘などによる指導

期 日	招聘指導者名	指導内容
16.4.11～12	国立歴史民俗博物館 春成秀爾氏	力石条里遺跡群出土再葬墓及び年代測定結果について
6.10～11	奈良文化財研究所 高妻洋成氏	六角木幢の保存処理について
7.15, 9.16	信州大学教育学部 赤羽貞幸氏	峯謡坂、力石条里、川久保遺跡の地形、地質環境について
7.26～28	東京都立大学 山田昌久氏	社宮司遺跡の木器について
9.15, 10.11	京都大学霊長類研究所 茂原信生氏	石子原遺跡出土江戸時代墓壙出土人骨の鑑定
11.25～26	大正大学 渋谷昌彦氏 群馬県埋蔵文化財調査事業団 谷藤保彦氏	駒形遺跡の出土土器について
12.3	沼津工業高等専門学校 望月明彦氏	駒形遺跡の黒曜石産地分析に関して
12.6～8	奈良文化財研究所 牛島茂氏	社宮司遺跡、竹佐中原遺跡出土遺物の写真撮影について
12.17	信州大学理学部 原山智氏	竹佐中原遺跡他の石器石材の鑑定
17.1.12～13	国立歴史民俗博物館 平川南氏	社宮司遺跡出土土書土器・漆紙文書について
2.10	六角木幢等整理検討委員会委員 藤澤典彦氏 沢田正明氏 武笠 朗氏	六角木幢の保存処理について
3.8	国際日本文化研究センター 宇野隆夫氏	社宮司遺跡の集落について

### (2) 学会・研修会などでの発表

期 日	発表者	内 容
16.6.6	町田勝則	長野県考古学会研究発表会「千曲市社宮司遺跡出土の六角木幢」
6.9	桜井秀雄	長野県立歴史館考古学講座「祭祀に使われた道具」
6.23	大竹憲昭	朝鮮大学校主催国際シンポジウム「日本列島における旧石器時代の磨製石斧」
8.22	大竹憲昭	飯田市地域史研究 研究集会「信州にはじめて住んだ人々ー竹佐中原遺跡の発掘調査ー」
9.5	大竹憲昭	黒曜石サミット国際研究集会「鷹山遺跡群と星糞峠黒曜石鉱山」
11.20	市川隆之	下伊那教育会考古学委員会講演会「信濃の中世陶器」

11.27	大竹憲昭	信州縄文文化研究会「縄文前夜ー先土器時代の信州ー」
12.5	大竹憲昭	2004年度岩宿大学「岩宿時代研究の方向を見定める」
12.18	大竹憲昭	日本旧石器学会シンポジウム「中部高地黒曜石原産地と石刃技法」
17.1.30	大竹憲昭	長野県立歴史館手前味噌講座「日本列島の始原文化を考えるー飯田市竹佐中原遺跡の成果と課題ー」
2.11	賛田明	諏訪地区遺跡調査研究発表会「茅野市駒形遺跡の調査」
2.27	平林彰	松本・木曾地区遺跡発表会「2004年度の県内の動向」
2.27	豊田義幸	長野県立歴史館手前味噌講座「千曲市八幡遺跡群の成果と課題ー社宮司遺跡の建築基礎材を中心に」
3.5	入沢昌基	信州縄文文化研究会「信濃～越後～日本海を結ぶ千曲川ー中世史のなかでー」
3.6	河西克造	長野県立歴史館手前味噌講座「縄文時代の狩猟ー白田町唐松B遺跡の成果と課題」

### (3) 研修・視察・資料調査活動

期 日	参加者	視察・調査地
16.8.21～22	河西克造	「東海考古学フォーラムー守護所シンポジウムー」参加
10.14～29	桜井秀雄	奈良文化財研究所「埋蔵文化財発掘技術者等研修 遺跡環境調査課程」受講
11.23	平林彰 廣田和穂	「埋蔵文化財行政研究会ー発掘調査報告書のあり方と今後」参加
12.20～22	町田勝則	「盛岡市埋蔵文化財センター」 「多賀城址調査研究所」 「中尊寺金色堂」ほか
17.1.12～21	西香子	奈良文化財研究所「埋蔵文化財発掘技術者等研修 報告書作成課程」受講
1.20～22	白沢勝彦	「第二回全国城跡等石垣整備調査研究会」参加
2.24～25	小林秀行 賛田明	「三島市郷土資料館」 「富士川町歴史民俗資料館」
2.28～3.4	賛田明	奈良文化財研究所「埋蔵文化財発掘技術者等研修 自然科学的年代決定法課程」受講
3.9～10	寺内隆夫	「八戸市教育委員会」 「是川縄文学習館」 「岩手県埋蔵文化財センター」
3.10～15	藤原直人	奈良文化財研究所「埋蔵文化財発掘技術者等研修 動物考古学課程」受講



#### (4) 全埋協などへの参加

期 日	会 議 名	開催地	参加者
16.4.23	全埋協中部・北陸ブロック連絡会	静岡市	市澤英利、平林 彰
6.10～11	第25回全埋協総会	白河市	小沢将夫、市澤英利
9.2～3	平成16年度第1回埋蔵文化財担当職員等講習会	佐賀市	平林 彰
10.14～15	全埋協研修会	和歌山市	藤岡俊文、藤原直人
10.7～8	全埋協中部・北陸ブロック連絡会	諏訪市・長門町	小沢将夫、藤岡俊文、上原貞、佐々木大介、市澤英利、平林彰、大竹憲昭、町田勝則
10.14～15	平成16年度関東甲信越静地区埋蔵文化財担当者会議	三浦市・横須賀市	寺内隆夫

#### (5) 市町村・関係機関などへの協力

期 日	市町村等	協力・指導内容	協力者
16.5.25, 10.26	中野市	中野市歴史民俗資料館専門委員会への参加	黒岩隆
5.25	高遠町	史跡高遠城跡内出土遺物の時代・産出地などについて	市川隆之
6.26	小諸市	一ツ谷区民の野火附遺跡見学会の案内	桜井秀雄
7.2	佐久市	野沢館跡ほか出土陶磁器の指導	市川隆之
8.19	大町市	山之神遺跡取り上げ集石炉の保存処理について	白沢勝彦
8.25,9.1, 9.8,9.15	中野市立中野平中学校	郷土の歴史を学ぶ社会人講師	入沢昌基
8.31～9.1	三重県埋蔵文化財センター	菟上遺跡出土石製品に関する指導	町田勝則
9.5	長門町	黒耀石サミット国際研究集会	大竹憲昭
10.19	長野市	裾花川扇状地遺跡群御所遺跡発掘調査に関する現地指導	河西克造
11.5	(株)ビデオ企画	「JAsスペシャル大地は語るー日本のコメ 信州のコメ」取材協力	河西克造
11.13	坂北村	東筑摩郡北部社会教育委員連絡協議会研修会の講師	柳澤亮

11.17	白田町	南久保・居村遺跡試掘調査指導	桜井秀雄
11.29	上田市	岡城跡発掘調査現地指導	河西克造
12.17	県教育委員会	市町村埋蔵文化財担当者発掘調査技術研修会講師	石上周蔵 西香子
17.2.22～3.2	長野市	スペシャルオリンピックス冬期世界大会ボランティア活動	上田真
2.26	関東弥生研究会	力石条里遺跡群出土土器見学案内	西香子
3.4～5	北上市	石器の使用痕に関する専門的指導	町田勝則

#### (6) 資料の貸し出し

- ・『山梨県史』通史編1：「竹佐中原遺跡出土の石器」写真
- ・長野県立歴史館春季展：「石川条里遺跡写真パネル」ほか13点のパネル
- ・『上田市誌』別巻(1)：「国分寺周辺遺跡群出土 土師器・須恵器・灰釉陶器」写真
- ・『ひたちなか市の考古学』：「竹佐中原遺跡現地説明会風景写真」
- ・長野市民新聞：「上木戸遺跡出土アクセサリー」写真他
- ・『新編ビジュアル日本史』：「石川条里遺跡出土 鍬の装着例」写真他
- ・千曲市森將軍塚古墳館企画展：「力石条里遺跡群 土器棺墓」出土状況写真、：「力石条里遺跡 土器棺墓出土土器」
- ・『中世都市研究第9号 政権都市』：「月岡遺跡 中世遺構撮影写真」
- ・『長野県埋蔵文化財発掘要覧その15』：「茅野市中村外垣外遺跡土墳墓」写真  
「千曲市東條遺跡発掘区全景」写真
- ・『月刊 考古学ジャーナル』2004年11月号：「竹佐中原遺跡の基本土層、石器他」写真
- ・『文化財発掘出土情報』：茅野市駒形遺跡現地説明会資料他、：小諸市野火附遺跡現地説明会資料他
- ・『豊田村史』：「千田遺跡・川久保遺跡遺物出土状況」写真

## Ⅳ 機構・事業の概要

### 1 機構

#### (1) 組織

(財) 長野県文化振興事業団

長野県埋蔵文化財センター

<b>〔理事会〕</b> 理事長 副理事長 常務理事 理事10名(学識経験者、長野県考古学会会長、長野県立歴史館館長など)	
--	--

所長 (常勤)	副所長 (行政職)	管理部長 (行政職)	管理部長補佐 (行政職)	職員 (行政職)
		調査部長	調査第一課長	調査第二課長
			調査研究員	調査研究員

事務局

長野県県民文化会館	長野県伊那文化会館	長野県松本文化会館
長野県信濃美術館	長野県飯田創造館	長野県佐久創造館
長野県立歴史館	長野県埋蔵文化財センター	

#### (2) 所在地

長野市篠ノ井布施高田963-4

### 2 実施事業

事業名		調査遺跡名	委託事業者	事業内容	経費 (千円)	調査表面積 (㎡)
受査	中部横断自動車道建設関連	小諸市 野火附遺跡ほか	日本道路公団	発掘調査	143,929	38,000
	(国)18号坂城更埴バイパス建設関連	千曲市 峯謡坂遺跡ほか	国土交通省 関東地方整備局	発掘調査 整理	81,289	3,450
	(国)474号飯喬道路建設関連	飯田市 川路大明神原遺跡ほか	国土交通省 中部地方整備局	発掘調査 整理 報告書刊行	92,901	21,480
	千曲川替佐築堤建設関連	豊田村 川久保遺跡	国土交通省 北陸地方整備局	発掘調査	90,169	15,000
	県道諏訪茅野線建設関連	茅野市 駒形遺跡	諏訪建設事務所	発掘調査	54,866	3,000
	(主)長野上田線力石バイパス建設関連	千曲市 力石条里遺跡群	千曲建設事務所	発掘調査	54,401	2,795
県道長野荒瀬原線建設関連	牟礼村 西四ツ屋遺跡	長野建設事務所	発掘調査	21,657	7,000	
託理	北陸新幹線建設関連	中野市 月岡遺跡	独立行政法人鉄道・ 運輸機構北陸新幹線 建設局	整理	17,287	
	(国)20号坂室バイパス建設関連	茅野市 中村外垣外遺跡	国土交通省 関東地方整備局	整理	10,197	
	国営アルプスあづみの公園建設関連	大町市 肩平遺跡ほか	国土交通省 関東地方整備局	整理 報告書刊行	12,719	
	あづみの排水路建設関連	三郷村 三角原遺跡	農林水産省安曇野農 業水利事業所	整理 報告書刊行	24,266	
	県道川上佐久線建設関連	白田町 唐松B遺跡	白田建設事務所	整理 報告書刊行	9,787	
	県道田口バイパス建設関連	白田町 三分遺跡	白田建設事務所	整理 報告書刊行	9,209	
	蓼科ダム建設関連	茅野市 笹原上第1・第2遺跡	諏訪建設事務所	整理 報告書刊行	2,427	
	広域営農団地農道整備佐久南部関連	八千穂村 馬込遺跡	佐久地方事務所	整理 報告書刊行	7,470	
	国道153号伊那バイパス建設関連	箕輪町 箕輪遺跡群	伊那建設事務所	報告書刊行	4,830	
	担い手育成基盤整備関連	茅野市 聖石・長峯遺跡	諏訪地方事務所 茅野市	報告書刊行	9,019	
農道整備関連	飯島町 原林遺跡	上伊那地方事務所	報告書刊行	316		
技術指導	中山間総合整備事業	坂北村 東畑遺跡	坂北村	技術指導	9,395	
保存	市町村出土遺物保存処理		上田市	遺物保存処理	155	
研修	調査研究員の専門的知識技術の習得	<委託者> 県教育委員会	<実施内容>奈良文化財研究所等 での研修、学会への参加等		400	
普及啓発等	埋文センター速報展	時期 7月 伊那文化会館 時期 2月 長野県庁1階ロビー 時期 3月 長野県立歴史館	屋代駅市民ギャラリー			
計	24事業				656,689	

### 3 役員及び職員

所長	小沢将夫
副所長	藤岡俊文
管理部長	藤岡俊文（兼）
管理部長補佐	上原 貞
職員	佐々木大介（主幹）、藤森富士子（主事）
調査部長	市澤英利
調査課長	廣瀬昭弘、平林彰
主任調査研究員	大竹憲昭
調査研究員	石上周蔵 市川隆之 入沢昌基 上田 真 河西克造 黒岩 隆 小林秀行 桜井秀雄 白沢勝彦 土屋哲樹 鶴田典昭 寺内隆夫 戸矢崎通昭 豊田義幸 中島英子 中野亮一 贄田 明 西 香子 廣田和穂 藤原直人 町田勝則 山崎まゆみ 柳澤 亮 若林 卓



**長野県埋蔵文化財センター年報21 2004**

発行日 平成17年3月31日

編集発行 (財)長野県文化振興事業団

長野県埋蔵文化財センター

〒387-8007 長野市篠ノ井布施高田963-4

TEL 026-293-5926

印刷 信毎書籍印刷株式会社

〒381-0037 長野市西和田470

TEL 026-243-2105

